

2020 年度

# 国際日本学部演習案内

School of Global Japanese Studies

Seminar Syllabus

明治大学

Meiji University

## 目 次 /Contents

1. ゼミナール（演習）とは何か / What is zemi? .....	2
2. 演習入室試験について（日本語版）	
演習入室試験日程 .....	4
演習入室試験受験上の注意 .....	6
演習入室試験申込手続 .....	7
3. Screening Information (in English)	
Screening Schedule .....	9
Important Notes .....	11
Application procedure for the Screening .....	12
4. 2020 年度国際日本学部演習担当教員一覧/List of Seminar lecturer in AY2020 .....	14
5. 演習概要（教員別） / Seminar syllabus	
01 ヴァシリュク, スヴェトラナ/VASSILIOUK, Svetlana .....	15
02 呉 在 焜 /OH, Jewheon .....	16
03 大須賀 直 子 /OSUKA, Naoko .....	17
04 大 矢 政 徳 /OYA, Masanori .....	18
05 小笠原 泰 /OGASAWARA, Yasushi .....	19
06 尾 関 直 子 /OZEKI, Naoko .....	21
07 岸 磨貴子 /KISHI, Makiko .....	22
08 金 ゼンマ /KIM, Jemma .....	23
09 クェク, マーリ J.N.H./QUEK, Mary .....	24
10 小 谷 瑛 輔 /KOTANI, Eisuke .....	25
11 小 森 和 子 /KOMORI, Kazuko .....	26
12 佐 藤 郁 /SATO, Iku .....	27
13 白 戸 伸 一 /SHIRATO, Shin-ichi .....	28
14 鈴 木 賢 志 /SUZUKI, Kenji .....	29
15 瀬 川 裕 司 /SEGAWA, Yuji .....	30
16 田 中 絵 麻 /TANAKA, Ema .....	31
17 田 中 牧 郎 /TANAKA, Makiro .....	32
18 旦 敬 介 /DAN, Keisuke .....	33
19 張 競 /CHO, Kyo .....	34
20 長 尾 進 /NAGAO, Susumu .....	35
21 沼 田 優 子 /NUMATA, Yuko .....	36
22 萩 原 健 /HAGIWARA, Ken .....	37
23 藤 本 由香里 /FUJIMOTO, Yukari .....	38
24 馬 定 延 /MA Jun-Yeon .....	39
25 溝 辺 泰 雄 /MIZOBE, Yasuo .....	40
26 美濃部 仁 /MINOBE, Hitoshi .....	41
27 宮 本 大 人 /MIYAMOTO, Hirohito .....	42
28 森 川 嘉一郎 /MORIKAWA, Kaichiro .....	43
29 山 脇 啓 造 /YAMAWAKI, Keizo .....	45
30 渡 浩 一 /WATARI, Koichi .....	46
31 ワルド, ライアン/WARD, Ryan .....	47

## ゼミナール（演習）とは何か

国際日本学部長  
鈴木 賢志

ゼミとは何でしょう。正直なところ、この学部で教え始めたばかりのころ、私はよく分かっていませんでした。実は、私は自分の学生時代にゼミという形式の授業を半年しか受けたことがありません。その時は先生の著書を分担して読み、それに関連してそれぞれ調べたことを発表するというものでした。その後、私は長らく海外の大学で過ごしましたが、学生としても教員としても、ゼミという形式の授業を経験することはありませんでした。ゼミというスタイルは、国際的にはかなり特殊な学びの形なのです。帰国して明治大学国際日本学部で教えるようになり、初めてゼミの学生の募集案内を書いた時には、ずいぶん悩みました。日本での教育経験が長い何人かの先生に「ゼミって、何をすれば良いのでしょうか」と聞いてみると、「君のやりたいようにやればいいんだよ」と、何とも答えになっていないような答えが返ってきて、途方に暮れてしまったことをよく覚えています。

それから長い月日が経ち、今年はどうとう 11 回目の募集となりました。これまでの試行錯誤と経験によって分かったのは、やはり結局は「やりたいようにやればいい」なのだ、ということでした。すなわち、一人一人の教員が、それぞれの専門的な見地から自分が最も有益であると信ずる教育を行うことが、学生のみなさんが充実した学びを得るための最善の方法だということなのです。

ただし、いくら教員が手をつくしても、みなさんが待ちの姿勢で「学ばせてもらう」のを待っているのでは、2年かけても何も得られません。ゼミが少人数であることの利点は、きめ細かく教えてもらえることだけではありません。あなたがどのような興味関心を持って、その教員から何を教わりたいのかを、しっかりと伝える機会を得られるということなのです。そして、それはあなた自身がしっかり考えなくてはならないことです。

なお、ゼミは個人ではなくグループで活動することも忘れてはなりません。そのことは、時としてあなたの行動を制約することになるかもしれません。けれども互いに協力し、切磋琢磨し合うことで得られるものは非常に大きいのです。さらにゼミを通じて得られるつながりは、将来にわたって続く、かけがえのない財産となります。

本学部の多くの皆さんが、ゼミを通じて新しい学びを体得し、また新しい出会いを育むことができるよう、心から願っています。

## What is zemi?

Kenji Suzuki

Dean, School of Global Japanese Studies

What is zemi? To be honest, I did not have the answer when I started to teach at this School. In fact, I took a zemi class for only one semester when I was a student myself. At that time, we merely read a book of the teacher and presented a research only in brief. I was at non-Japanese universities thereafter, and I had no zemi either as a student or as a teacher. After all, zemi is very unique of Japan. When I came back to Japan to teach at this School, I had no experience of zemi. Hence it was very difficult for me to write a syllabus of zemi. I remember that I asked my older colleague what I should do for zemi, and that the answer was “You can do whatever you like” - I was at a loss in the end.

Long time has passed since then, and this is the 11th time of our zemi guidance. After many trials and errors and various experiences, I have now concluded that it is best to do whatever I like. I now believe that it is best for our teachers, as highly qualified experts of their own fields, to do whatever they like, so that they can provide the best education for the students.

However, you cannot get anything, even taking two years, if you just wait “to be learned”. Zemi is composed of a small number of students, and that is beneficial to you not only because you are cared more in class, but also because you have more chances to express what you are interested and what you expect to learn. Of course, you have to prepare yourself for that.

Having said that, you have to remember that zemi acts as a group, and that is not an individual lesson. That might be a restrict at times, but you may well gain valuable experiences from cooperation and mutual development by various group-based activities.

I sincerely hope that many of you at this School will learn new things and meet many new people with zemi, which help you develop even further.

## 2. 演習入室試験について（日本語版）

### 演習入室試験日程

#### 1 演習入室選考試験ガイダンス動画/演習紹介動画 配信

日程：9月19日（木）～

方法：[WEB 配信](#)

#### 2 入室選考試験

##### （1）一次募集

①個別ガイダンス 10月8日（火）～10月10日（木）

[実施日時・会場] Oh-o!Meiji で配信します。

※担当者によっては個別ガイダンスへの参加を必須としている場合があります。

②申込受付 10月11日（金）12：00～10月15日（火）12：00

[申込方法] Oh-o! Meiji ポータルページのアンケートに回答してください。

③選考試験 10月26日（土）10：00～

[試験会場] Oh-o! Meiji で配信します。

④合格発表 10月29日（火）13：00

[発表場所] Oh-o!Meiji で配信します。

##### （2）二次募集

①個別ガイダンス 11月12日（火）～11月14日（木）

[実施日時・会場] Oh-o!Meiji で配信します。（1次募集 合格発表時）

※担当者によっては個別ガイダンスへの参加を必須としている場合があります。

②申込受付 11月11日（月）12：00～11月16日（木）12：00

[申込方法] Oh-o! Meiji ポータルページのアンケートに回答してください。

③選考試験 11月30日（土）10：00～

[試験会場] Oh-o! Meiji で配信します。

④合格発表 12月 3日（火）13：00

[発表場所] Oh-o!Meiji で配信します。

##### （3）三次募集

①個別ガイダンス 原則無し

②申込受付 事前の申し込みは不要です。二次合格発表時に選考試験の概要をお知らせしますので、その指示に従ってください。

③選考試験 12月 7日(土)～12月13日(金)の期間中いずれか1日

[試験会場] 日程及び会場の詳細は二次合格発表時お知らせ

④合格発表 各演習の担当者に試験当日に確認してください。

### 3 留学をしている学生について

2年次秋学期/3年次春学期に留学している場合でも、留学しない他の学生と同じ日程および方法で手続きを行う必要がありますので注意してください。また、試験や申込受付等の時間はすべて「日本時間」を基準に行われます。十分に注意してください。

2年次秋学期に留学に参加し、教員による演習個別ガイダンスに参加できない場合は、後日教員のメールアドレスを提供します。希望する演習担当教員へ各自、演習個別ガイダンス期間内に E-mail 等で個別ガイダンス実施の依頼をしてください。

入室試験は各演習担当教員が個別に実施します。なお、試験については留学しない学生と同じ日程で実施する予定ですが、時差等による配慮を希望する場合は、E-mail 等で演習担当教員へ各自、依頼をしてください。

## 2. 演習入室試験について（日本語版）

### 演習入室試験受験上の注意

受験にあたっての注意事項は以下のとおりです。

- 1 各演習の募集人員は、10～21名です。
- 2 入室試験の申し込みは、Oh-o!Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して、各期限内に手続きをしてください。（但し三次試験は別）。  
詳細は7ページ以降を確認してください。（締切厳守。期限を過ぎた場合、申し込みをすることはできません。）
- 3 演習入室試験日程等演習に関係する重要なお知らせはすべて Oh-o!Meiji ポータルページへ配信します。演習入室試験実施期間中は、随時確認するようにしてください。
- 4 受験後に演習を変更することはできません。
- 5 同一募集期間内に複数の演習を受験した者は、すべて無効（不合格）となります。
- 6 合格が決定した者は、それ以降の受験資格を失います。ただし、4月に募集する演習への入室試験に限り、既に合格が決定した演習の担当教員の了承を得たうえで、受験することが認められます。
- 7 4月に募集する演習に入室を希望する場合も今回の演習入室試験を受験することは原則可能です。ただし、もし今回の演習入室試験に合格した上で4月に募集する演習を受験するためには、既に合格が決定した演習の担当教員の了承を得なければなりません。  
4月に募集する新任教員等の演習入室試験の受験を希望している場合は、今回受験する予定の教員に、個別ガイダンス等を利用して、事前にその受験の可否について必ず確認して下さい。
- 8 担当者の都合で3年次のみ開講する場合があります。対象となる演習はガイダンスでお知らせします。

## 2. 演習入室試験について（日本語版）

### 演習入室試験申込手続

入室試験（一次・二次）の申し込みは、Oh-o! Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して行います。申込手続き方法は以下のとおりです。

- 1 「Oh-o! Meiji システム」(https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index) のポータルページへログインしてください。Oh-o! Meiji システムのポータルページへのログインには、共通認証パスワードが必要になります。忘れてしまった場合は速やかに事務室窓口にて再発行の手続きをしてください。電話による再発行の問い合わせは受け付けません。
- 2 自身のポータルページが表示されます。受付期間になったら、アンケート「2020 年度演習入室試験一次申込手続き」を選択してください。

The screenshot shows the Oh-o! Meiji portal interface. At the top, there are navigation tabs for HOME, クラスウェブ, 授業検索, グループ, and ポートフォリオ. Below the navigation, there are several sections: a calendar for June 2017, a '個人宛・所属事務室からのお知らせ' (Notice from individual/department) section with a link to '海外トップユニバーシティ留学奨励助成金について', a '授業に関するお知らせ' (Notice regarding classes) section, and an 'アンケート' (Survey) section. The survey section is circled in red and contains a survey titled '2018年度演習入室試験一次申込手続き' (2018 Survey for First-time Application for Practice Room Exam) with a 'NEW' tag and a response deadline of 2017/07/21. There are also sections for 'Meiji Mail' and 'RSSリーダー' (RSS Reader).

- 3 「2020 年度演習入室試験一次申込手続き」の画面が表示されますので、必要情報を全て入力してください。

ME > アンケート回答 > トップ

2019年度演習入室試験一次申込手続き(20180820)	
回答期間	
記名・無記名	記名式アンケート
回答の修正	可
氏名	
回答日時	未回答

登録部署: 中野教務事務室

設問1 学年を選択してください。  
Please select your year. **[必須]**



4 すべて入力したら、「確認画面に進む」を選択してください。※まだ申込完了ではありません。

設問6	あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？ ※ この項目は入室試験には影響されません。  How did you check the seminar introduction? * This questionnaire is not effect to the screening result. <b>[必須]</b>
	<input type="radio"/> 見ていない / I did not check any introduction. <input type="radio"/> 個別説明会（オフライン） / Orientation by instructor (Off-line) <input checked="" type="radio"/> ホームページ（オンライン） / Homepage (On-line) <input type="radio"/> 個別説明会・ホームページ両方 / Both

上記内容でよろしければ「確認画面に進む」ボタンをクリックして次に進んでください。

[保存せずに前の画面に戻る](#)      [確認画面に進む](#)

5 入力内容の確認画面が表示されますので、必ず入力内容を再度、確認してください。問題がなければ「回答する」をクリックしてください。入力内容に修正を加える場合は「前に戻る」を選択し、修正してください。

設問6	あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？ ※ この項目は入室試験には影響されません。  How did you check the seminar introduction? * This questionnaire is not effect to the screening result. <b>[必須]</b>
	ホームページ（オンライン） / Homepage (On-line)

[← 前に戻る](#)

[回答する](#)

Page Top

入力内容確認画面を確認後、「回答する」をクリックすれば、申込完了です。

※申込内容は期間内であれば修正することができます。

※上記は一次申込手続きを例に挙げましたが、二次申込手続きも同様の手続きとなります。

※三次試験については申込方法が異なります。二次試験合格発表時に発表される三次募集選考試験の指示に従ってください。

## 3. Screening Information

### Screening Schedule

#### 1 Online video: Seminar Screening guidance video /Seminar Introduction video

The online video will be available from Wednesday, September 19

Notes : Check the [website](#).

#### 2 Seminar Screening

##### (1) Period 1

###### ① Individual guidance: Seminar Introduction

Date : Tuesday, October 8 - Thursday, October 10

Note : Details will be announced on Oh-o! Meiji. For some seminars, participation to the individual guidance is mandatory.

###### ② Application Period: Friday, October 11, 12pm–Tuesday, October 15, 12pm.

Please apply with Oh-o! Meiji.

###### ③ Screening: Saturday, October 26. 10am

The venue will be announced on Oh-o! Meiji.

###### ④ Screening results will be announced on Oh-o! Meiji from 1 pm, Tuesday, October 29

##### (2) Period 2

###### ① Individual guidance: Seminar Introduction

Date : Tuesday, November 12 - Thursday, November 14

Note : Details including instructors, time, date, and venue will be announced at the same time as the results for Period 1. For some seminars, participation to the individual guidance is mandatory.

###### ② Application Period: Thursday, November 11, 12pm - Saturday, November 16, 12pm

Please apply with Oh-o! Meiji.

###### ③ Screening: Saturday, November 30, 10am

The venue will be announced on Oh-o! Meiji.

###### ④ Screening results will be announced on Oh-o! Meiji from 1 pm, Tuesday, December 3.

##### (3) Period 3

Seminars for screening in Period 3 will be announced when results for Period 2 are released, along with the Schedule for Period 3. For Period 3, please directly contact the instructor. There is no need to apply with Oh-o! Meiji, and individual guidance

will not be offered for each seminar.

### 3 For students participating in Study Abroad Program

- If you are studying abroad in the Fall Semester of your second year or the Spring Semester of your third year, you must also follow the same schedule and take the same procedures as other students. Please note that all dates and times are in Japan Standard Time (JST).
- If you are studying abroad during the Fall Semester of your Second year, and cannot participate in the instructor's individual guidance, we will provide the instructor's contact information. Please request the Seminar instructor to give you an individual guidance during the designated period for the individual guidance.
- Each instructor will conduct screening in an individual method. The screenings are scheduled to be carried out on the same schedule (time) as students who do not participate in the study abroad program. However, if you wish your time-zone, etc. to be considered, please contact each instructor by E- mail.

### 3. Screening Information

#### Important Notes

Carefully read the following information before applying to Seminars.

- 1 The number of students to be accepted in each seminar is 10 to 21 students.
- 2 If you wish to apply for screening, please apply (Period 1 or Period 2) **by Oh-o! Meiji during the designated period.** Applications after the deadline cannot be accepted.
- 3 All notices will be sent through Oh-o! Meiji. Please check it regularly.
- 4 Changes or cancelations cannot be accepted after the end of the designated application period.
- 5 You can only apply for one Seminar during each period. If you apply for more than one Seminar in one period, all results will be judged as invalid.
- 6 If you pass screening for a Seminar, you are no longer qualified to take the screening in the next period. However, you are able to apply for the screening for new seminars in April. If you wish to apply for new seminar in April, you need to obtain approval from the instructor of your current Seminar.
- 7 If you intend to participate in a Seminar which conducts Screening in April, in many cases it is still possible to apply for Screening at this time. However, please note that in order to apply for Screening in April after you pass the screening in the Fall Semester, you will need approval of the instructor of your current seminar. If you are planning to apply for a new seminar in April please make sure to confirm with the instructor of the seminar you will apply to, whether it will be permitted or not.
- 8 There will be seminars which are held only for the third year (2 semesters). These seminars will be announced later at the orientation.

### 3. Screening Information

#### Application for Screening

You can apply for the seminar screening Period 1 and Period 2 with the Oh-Meiji! Questionnaire function. Please see details below.

- 1 Login to Oh-o! Meiji: <https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index>
- 2 Please choose [2020 年度演習入室試験一次申込手続き] (Application for Seminar Screening 2020) and go on to the next page.

The screenshot shows the Oh-o! Meiji portal homepage. At the top, there are navigation tabs: HOME, クラスウェブ, 授業検索, グループ, and ポートフォリオ. Below the navigation, there are several sections: a calendar for June 2017, a '個人宛・所属事務室からのお知らせ' (Notice from individual/department) section with a link for '海外トップユニバーシティ留学奨励助成金について', a '授業に関するお知らせ' (Notice about classes) section, and a 'その他大学からのお知らせ' (Notice from other universities) section. On the right side, there are links for 'Meiji Mail' and 'RSSリーダー'. At the bottom left, the 'アンケート' (Survey) section is circled in red, showing a link for '2018年度演習入室試験一次申込み手続き' (Application for Seminar Screening 2018) with a 'NEW' tag and a response deadline of 2017/07/21.

- 3 Please fill out the required information in the [2020 年度演習入室試験一次申込手続き] (Application for Seminar Screening 2020).

ポータルHOME > アンケート回答 > トップ

The screenshot shows the '2019年度演習入室試験一次申込手続き(20180820)' form. The form is titled 'アンケート' (Survey) and contains the following information:

回答期間	
記名・無記名	記名式アンケート
回答の修正	可
氏名	
回答日時	未回答

登録部署: 中野教務事務局

設問1 学年を選択してください。  
Please select your year. [必須]

4 After you complete all questions, select [確認画面に進む](Next). You have not finished yet.

設問6 あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？  
※ この項目は入室試験には影響されません。

How did you check the seminar introduction?  
\* This questionnaire is not effect to the screening result. **[必須]**

見ていない / I did not check any introduction.  
 個別説明会（オフライン） / Orientation by instructor (Off-line)  
 ホームページ（オンライン） / Homepage (On-line)  
 個別説明会・ホームページ両方 / Both

上記内容でよろしければ「確認画面に進む」ボタンをクリックして次に進んでください。

[保存せずに前の画面に戻る](#) [確認画面に進む](#)

5 Please make sure to re-check your answers in the screen. If something is wrong, choose [前に戻る](Back). If everything is okay, choose [回答する](Submit).

設問6 あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？  
※ この項目は入室試験には影響されません。

How did you check the seminar introduction?  
\* This questionnaire is not effect to the screening result. **[必須]**

ホームページ（オンライン） / Homepage (On-line)

[← 前に戻る](#)

[回答する](#)

Page Top

※ You can change the registered information until the deadline.

※ Registration for Period 3 screening is done differently from other periods. We will send you details when the screening results are released for Period 2.

4. 2020年度国際日本学部演習担当教員一覧/List of Seminar lecturer in AY2020

コード番号 Code	氏名 Lecturer	職名 Title	担当科目 Lecture Course	開講言語 Language
01	<a href="#">ヴァシリョーク・スヴェトラーナ</a> <a href="#">VASSILOUK Svetlana</a>	教授 Prof.	国際関係論 International Relations	英語 English
02	<a href="#">呉 在垣</a> <a href="#">OH Jewheon</a>	教授 Prof.	日本的ものづくり論 Japanese Manufacturing Management	日本語 Japanese
03	<a href="#">大須賀直子</a> <a href="#">OSUKA Naoko</a>	教授 Prof.	言語と文化 Language and Culture	日本語 Japanese
04	<a href="#">大矢 政徳</a> <a href="#">OYA Masanori</a>	准教授 Associate Prof.	英語学 English Linguistics	日本語 Japanese
05	<a href="#">小笠原 泰</a> <a href="#">OGASAWARA Yasushi</a>	教授 Prof.	日本のビジネス文化 Business Culture in Contemporary Japan	日本語 Japanese
06	<a href="#">尾関 直子</a> <a href="#">OZEKI Naoko</a>	教授 Prof.	応用言語学 Applied Linguistics	日本語又は英語 Japanese and English
07	<a href="#">岸 磨貴子</a> <a href="#">KISHI Makiko</a>	准教授 Associate Prof.	インターネットと社会 Internet and Society	日本語 Japanese
08	<a href="#">金 ゼンマ</a> <a href="#">KIM Jemma</a>	准教授 Associate Prof.	アジア太平洋政治経済論 Asia-Pacific Political Economy	日本語 Japanese
09	<a href="#">クエク、マーリ J.N.H.</a> <a href="#">QUEK Mary</a>	特任准教授 Associate Prof.	ホスピタリティ・マネジメント論 Hospitality Management Studies	英語 English
10	<a href="#">小谷 瑛輔</a> <a href="#">KOTANI Eisuke</a>	准教授 Associate Prof.	近現代日本文学 Modern Japanese Literature	日本語 Japanese
11	<a href="#">小森 和子</a> <a href="#">KOMORI Kazuko</a>	教授 Prof.	日本語教育学(語彙) Japanese Language Teaching (Vocabulary)	日本語 Japanese
12	<a href="#">佐藤 郁</a> <a href="#">SATO Iku</a>	講師 Senior Assistant Prof.	ツーリズム・マネジメント Tourism Management	日本語 Japanese
13	<a href="#">白戸 伸一</a> <a href="#">SHIRATO Shinichi</a>	教授 Prof.	日本流通史 History of Japanese Marketing Systems	日本語 Japanese
14	<a href="#">鈴木 賢志</a> <a href="#">SUZUKI Kenji</a>	教授 Prof.	日本社会システム論 Japanese Social Systems	日本語 Japanese
15	<a href="#">瀬川 裕司</a> <a href="#">SEGAWA Yuii</a>	教授 Prof.	映像文化論 Film Studies	日本語 Japanese
16	<a href="#">田中 絵麻</a> <a href="#">TANAKA Ema</a>	講師 Senior Assistant Prof.	テクノロジーと日本社会 Technology and the Japanese Society	日本語 Japanese
17	<a href="#">田中 牧郎</a> <a href="#">TANAKA Makiro</a>	教授 Prof.	日本語学 Japanese Linguistics	日本語 Japanese
18	<a href="#">旦 敬介</a> <a href="#">DAN Keisuke</a>	教授 Prof.	ラテンアメリカの歴史と文化 Latin American Studies	日本語又は英語 Japanese and English
19	<a href="#">張 競</a> <a href="#">CHO Kyo</a>	教授 Prof.	比較文化学 Comparative Culture	日本語 Japanese
20	<a href="#">長尾 進</a> <a href="#">NAGAO Susumu</a>	教授 Prof.	武道文化論 Cultural Studies in Budo (Japanese Martial Arts)	日本語 Japanese
21	<a href="#">沼田 優子</a> <a href="#">NUMATA Yuko</a>	特任教授 Prof.	経営学 Business Administration	英語 English
22	<a href="#">萩原 健</a> <a href="#">HAGIWARA Ken</a>	教授 Prof.	舞台芸術論 Performing Arts	日本語又は英語 Japanese and English
23	<a href="#">藤本由香里</a> <a href="#">FUJIMOTO Yukari</a>	教授 Prof.	漫画文化論 Manga Culture	日本語 Japanese
24	<a href="#">馬 定延</a> <a href="#">MA Jung-Yeon</a>	特任講師 Senior Assistant Prof.	メディア・アート Media Arts	英語 English
25	<a href="#">溝辺 泰雄</a> <a href="#">MIZOBE Yasuo</a>	教授 Prof.	世界のなかのアフリカ Africa in the Contemporary World	日本語 Japanese
26	<a href="#">美濃部 仁</a> <a href="#">MINOBE Hitoshi</a>	教授 Prof.	日本の哲学 Japanese Philosophy	日本語 Japanese
27	<a href="#">宮本 大人</a> <a href="#">MIYAMOTO Hirohito</a>	准教授 Associate Prof.	日本漫画史 History of Japanese Comics	日本語 Japanese
28	<a href="#">森川嘉一郎</a> <a href="#">MORIKAWA Kaichiro</a>	准教授 Associate Prof.	日本先端文化論 Otaku Culture	日本語又は英語 Japanese and English
29	<a href="#">山脇 啓造</a> <a href="#">YAMAWAKI Keizo</a>	教授 Prof.	多文化共生論 Issues in Intercultural Communities	日本語 Japanese
30	<a href="#">渡 浩一</a> <a href="#">WATARI Koichi</a>	教授 Prof.	日本の文化伝統 Japanese Cultural traditions	日本語 Japanese
31	<a href="#">ワルド、ライアン M.</a> <a href="#">WARD Ryan</a>	講師 Senior Assistant Prof.	比較宗教論 Comparative Religious Studies	日本語又は英語 Japanese and English

# 01 ヴァシリョーク, スヴェトラーナ VASSILIOUK, Svetlana 教授 Prof.

---

## 1. 演習のテーマ/ Theme

“International Relations in the Asia-Pacific with the focus on Japanese Foreign Policy”

This seminar offers lectures, discussions, and readings reflecting on contemporary international relations in the Asia-Pacific Region (the APR), with a special focus on Japan’s foreign policy. Topics covered include – Japan’s participation in the military conflicts of the late 19<sup>th</sup>-early 20<sup>th</sup> centuries; the Pacific War (1937-1945) and its legacy in Japan; key issues in Japan’s postwar relations with major powers in the region; and the impact of the declining power of the US in regional and global affairs. In the course of two years, students will participate in field trips, attend public talks, and prepare reports and news analyses pertaining to the topics covered in class.

## 2. 授業内容/ About the course

### (1) 授業の進め方/ How the course is conducted

**<3 年次 / 3rd Year>:** This seminar will begin with an overview of Japan’s history of foreign relations, providing students with the historical frameworks for explaining and understanding Japan’s contemporary international relations in the APR. The seminar lectures, discussions, and readings will focus on a variety of core topics, such as: imperialism in East Asia and Japan’s participation in major military conflicts of the 19<sup>th</sup>-early 20<sup>th</sup> centuries; the Pacific War (1937-1945); the key issues in Japan’s relations with key powers in the region; and the rise of “the rest” and the emerging new world order.

**<4 年次 / 4th Year>:** The following topics will be covered: the rise of China; the role of India in the APR; the impact of the declining power of the US in the regional and global perspectives; the history of and the most feasible approaches to Japan’s major territorial disputes in the APR; and the prospects for Japan’s relations with the key powers in the APR. At the end of the 4<sup>th</sup> year, students will write and present a research paper (thesis) covering one of the important and/or controversial issues in Japan’s foreign relations in the APR.

**(2) ゼミ論の有無/ Thesis:** Yes

### (3) 評価方法/ Evaluation

**<3 年次 / 3rd Year>** News Portfolio 30%; Briefing paper 30%; Summaries 20%; Class Participation 20%

**<4 年次 / 4th Year>** Thesis 60%; Presentations 20%; Class Participation 20%

## 3. 使用テキスト/ Textbook(s)

### **REQUIRED BOOK:**

(3B), (4A): Fareed Zakaria, “The Post-American World” (Release 2.0 Edition), 2011.

### **RECOMMENDED BOOKS:**

(3A): James L. McClain “Japan: A Modern History,” W.W. Norton & Company: New York, 2002; Jeff Kingston, “Contemporary Japan,” Wiley-Blackwell, 2011.

(4B): Thomas J. Schoenbaum, “Peace in Northeast Asia,” Edward Elgar: Cheltenham, UK, 2008.

In addition, various handouts will be distributed in class as needed.

## 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

1). This seminar will be in English only. Students should have adequate English language skills to do well in this course.

2). Students are required to attend seminar sessions regularly. Any student, who is absent FOUR or more times, except absences due to the documented emergencies, will receive a failing grade.

## 5. 選考方法 / Screening

The students will have to write a short essay in English describing their interest in this seminar.

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

It is highly desirable that the students have completed basic courses in Political Science and/or International Relations prior to taking this seminar.

## 7. その他/ Others

Seminar events and additional information will be announced in class.



## 02 吳 在恒 教授

---

### 1. 演習のテーマ

この演習では、日本企業のものづくりやマーケティング、そして経営戦略について学習します。日本企業のものづくりの仕組みや考え方、マーケティング活動、経営戦略に関する文献を購読します。製造業だけではなく小売やサービス業など様々な業種の事例を扱う文献を読み、経営戦略やマーケティングの基礎理論を学びます。また、日本企業の国内事業だけではなく、日本企業の海外展開についても目を配ります。

このように幅広い内容の文献を購読しつつ、各自自分の関心・興味のある問題を研究テーマとして設定して、それを卒業までに研究していきます。このテーマ研究は論文形式ではなく、プレゼンテーション形式にまとめてゼミでの最終報告会で報告してもらいます。

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

##### <3年次>

3年次の春学期には、身近な事例を扱っているマーケティング関連理論書を読みます。3年次の秋学期には、多数の業種の事例を取り上げて経営戦略について説明する文献を購読します。毎回、一人が担当した部分の要旨を報告し、皆で議論して理解を深められるように進めていきます。

##### <4年次>

4年次の春学期には、日本企業の海外事業展開に関する文献を読み、日本企業のグローバル経営について学習します。秋学期は、文献購読とともに、各自のテーマ研究の中間報告を行い、演習の終わりころには、最終報告をしてもらいます。

#### (2) ゼミ論の有無

無い。

#### (3) 評価方法

<3年次 / 3<sup>rd</sup> Year>

出席点 (30%)、議論への参加度 (30%)、報告 (40%) で行う。

<4年次 / 4<sup>th</sup> Year>

出席点 (20%)、議論への参加度と報告 (40%)、テーマ報告の完成度 (40%) で行う。

### 3. 使用テキスト

文献は適宜紹介あるいは配布するが、3年春学期には、『マーケティングを学ぶ』石井淳蔵著 (ちくま新書) を、秋学期には、『ゼロからの経営戦略』沼上幹 (ミネルバ書房) を購読します。

### 4. 応募学生に望むこと

企業経営に関心を持ち、積極的にゼミに参加できる学生を望みます。  
無断欠席は厳禁です。

### 5. 選考方法

面接

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと

演習担当教員の学部科目「経営学A」「経営学B」を履修しておくことが望ましい。

### 7. その他

3年次の夏休みに海外でのゼミ研修を行う予定です。

## 03 大須賀 直子 教授

---

### 1. 演習のテーマ

翻訳を通して考える言語と文化

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

##### <3年次>

実際に翻訳をおこなうことが中心となります。春学期は、児童文学、ミステリーなどを訳して翻訳技術を磨きます。また、字幕翻訳の基礎を学び、実際に練習します。春学期の終わりには、各自が翻訳したい本または映画を選び、シノプシス（一種の企画書）を作成し、プレゼンテーションをおこなって秋学期に共同で翻訳する作品を選びます。秋学期は、完成度の高さにこだわって、1つの本または映画を完訳します。また、受講者の希望によって、翻訳に関する文献講読をおこない、研究発表をしていただくこともあります。

##### <4年次>

各自がテーマを決めて翻訳、字幕翻訳、または翻訳に関連する研究をおこない、発表します。

#### (2) ゼミ論の有無

本または映画の翻訳をおこなうか、または翻訳に関連する研究論文を書きます。

#### (3) 評価方法

<3年次> 平常点（20%）、発表（30%）、翻訳（50%）でおこなう。

<4年次> 平常点（20%）、発表（20%）、翻訳/論文（60%）でおこなう。

### 3. 使用テキスト

授業内で相談をして決めます。

### 4. 応募学生に望むこと

担当である・なしにかかわらず、翻訳の課題は必ずやってくる。課題の締め切りを守る。授業内では積極的に発言すること。無断欠席は厳禁。

### 5. 選考方法

筆記試験とアンケート。

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと

演習担当教員の学部科目「言語と文化A・B」をなるべく履修しておくことが望ましい。

### 7. その他

夏休みに合宿をおこなう予定です。

## 04 大矢 政徳 准教授

---

### 1. 演習のテーマ

コーパス言語学

本演習では、言語学に興味関心がある学生を対象として、コーパスを活用した研究方法について基礎から学んでいきます。コーパスとは、ある言語を研究するための資料として、その言語の発話やテキストを大規模に収集して体系的に整理したものです。コーパスを利用した言語研究には様々なものがあり、その可能性はますます広がっています。本演習では、(1)既存の主要なコーパスの歴史と特徴、(2)それらを言語資料として利用した際に得られる知見、(3)コーパスを使った言語調査を進めるために必要な言語学の知識、(4)コーパス研究で利用されるツール、そして(5)コーパス構築の方法について学んでいきます。

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

##### <3年次>

演習のテーマで紹介した(1)~(5)のトピックについて学んでいきます。第一に、グループでの発表を行います。発表の際に使用する言語は英語とします。第二に、コーパス研究で使われるツール(コンコーダンサー、品詞タグ付与プログラム、統語構文解析器など)を実際にコンピューター教室で利用し、自らのコーパス研究の際にどのような利用可能性があるのかを考えます。3年次終了までにゼミ論の研究テーマを決定し、一年間の学習の総決算としてレポートを提出します。

##### <4年次>

ゼミ論作成を進めます。ゼミ論の内容についての発表を行います。

#### (2) ゼミ論の有無

有り

#### (3) 評価方法

<3年次 / 3<sup>rd</sup> Year> 授業への参加 50%、発表 30%、レポート 20%

<4年次 / 4<sup>th</sup> Year> ゼミ論 70%、発表 30%

### 3. 使用テキスト

Jones, C. and Waller, D. 2015. *Corpus Linguistics for Grammar: A guide for research (Routledge Corpus Linguistics Guides)*. Routledge.

### 4. 応募学生に望むこと

データに基づいて客観的に判断する思考力を養ってください。

### 5. 選考方法

志望動機書と面接で選考します。

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと

言語学の知識は必須ですので、関連する授業科目が履修済みであるのが望ましいです。

### 7. その他

## 05 小笠原 泰 教授

---

### 1. 演習のテーマ

テクノロジー、グローバル化、ポピュリズムをキーワードに個人・企業・国家間のパワーシフトを考える - 20年後に SURVIVE しているためには -

「デジタル・テクノロジー革新と融合したグローバル化」により社会を開いたことで、マクロには個人と企業がよりパワーを獲得する一方、国家はパワーを失ってきています。その中で、先進国では、国家に対してパワーを強めた(自律した)個人と、パワーが弱まり、パワーを減じている国家に依存する、それ以上にパワーが弱まった個人(パワーの低下が止まらない国家は、彼らをパワーの再強化に利用します)への二極化(格差)が明確に進行しつつあります。つまり、国家と企業と個人の3者間のパワーバランスが、「開いた世界」を志向する人々と「閉じた世界」を望む人々との間で異なっているということです。「閉じた世界」を望む人々の格差への怒りを政治に利用する動きをメディアはポピュリズムと呼んでいます。

トランプ大統領を選出したアメリカの大統領選挙やイギリスの Brexit の国民投票、そして今回の EU 議会選挙の結果が示すように、現在この分裂は拮抗していて、自分の陣営により多くの人を引き込もうとする綱引きの状態であるかと思います。パワーが低下する国家は、国民国家という存在の性格上、より強い主権行使を望むので、コントロールしやすい「閉じた世界」に国民を引き込むことを望みます。

問題は、今後の世界は「開いた社会」と「閉じた社会」のどちらに向かうかにあるかだと思います。自由民主主義思想(選択肢の拡大と選択の自由)と市場経済を批判するのは構わないのですが、日本やイタリアを見ればわかるように、急速な少子高齢化の中で、経済力が弱まり、パワーが減じていく国家は、果たして「閉じた社会」を望む人々を救えるのでしょうか。アメリカを「閉じた社会」にしようとするトランプ大統領ですが、巨大なアメリカ市場を盾にしているので、一時的には「閉じた社会」の勝利を宣言するかもしれませんが、その結果、アメリカは決定的に分断されるでしょう。2018年の中間選挙で、民主党が下院で勝利したのは、これを決定づけたと言えるでしょう。

強いアメリカを主張するトランプ大統領ですが、かえって、アメリカはイノベーションという成長のモメンタムを失い、国際社会での強さ、そして、権威さえも失うのではないのでしょうか。

ポピュリズムの隆盛の本質は、国家極右主義や社会主義を支持するというイデオロギーの問題ではなく、多様化を認め、変化が当然の「開いた社会」を望む(あらゆる変化に可能性を見だし、国を消極的にしか必要としない)人々と、多様化を認めず変化を拒否する「閉じた世界」を望む(あらゆる変化をリスクに感じ、国を積極的に必要とする)人々の分裂が起きているということです。

つまり、かつてのように、国境という高い壁を前提に国家が主権を単独で行使し、そのなかで企業・市場と国民(個人)と国家のインタストは当然一致するという三位一体的な考えは急速に弱まりつつあると言えます。事実、自由民主主義思想がグローバルな形で個人や企業・市場に共有化される中で、モイセス・ナウムも論じるように国家の実行支配力と権威の低下と言う大きな流れが反転することはないと想定しています。

つまり、今後の世界では、もはや、国家は単独で主権を行使できる絶対的な存在であるという前提は所与ではなく、国家はグローバル化する世界の中でのプレーヤーの一つであると考えること

が必要となります。つまり、企業・市場、個人と並んだ、相対的プレーヤとしての国家とは、どのような存在であり、どのように変質していくべきであるかを見極める必要があります。それに応じて、企業や社会の在り方や生活も変化します。

このような急速な環境変化を踏まえて、ゼミ生一人一人が個人として、どのように「デジタル・テクノロジー革新と融合した急速なグローバリゼーション」という環境変化に適応し、多様化する「開いた世界」の中で、20年後を見据えて働くとは何かを考える、つまりどう SURVIVE するかを考えるのが、ゼミのテーマです。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3 年次>

★ グローバル化の進展とデジタル・テクノロジー革新による環境の変化を包括的に捉え、グローバリゼーションとはなにかについての認識を深めます。

★ 国家のパワーの低下と企業と個人のパワーの増大と社会の多様化についての認識を深めます。

#### <4 年次>

★ ゼミ生一人一人が個人として、どのように「デジタル・テクノロジー革新と融合した急速なグローバリゼーション」という環境変化に適応し、多様化する「開いた世界」の中で、20年後を見据えて働くとは何かを考えていきます。

★ 上記を踏まえて、グループでの結論をまとめて発表します。

### (2) ゼミ論の有無

ナシ（代わりに卒業発表を行います）

※ 卒業発表は、グループを基本とします。ゼミ論を希望する人は、相談してください。

### (3) 評価方法

#### <3 年次>

春学期・秋学期：定期発表(40%)議論への参加・貢献度(30%)各期終了レポート(30%)※ ゼミであるので、出席は評価の前提とします。

#### <4 年次>

春学期：定期発表(40%)、議論への参加・貢献度(30%)、春学期終了レポート(30%)

秋学期：定期発表(30%)、卒業グループ発表(70%)

※ ゼミであるので、出席は評価の前提とします。

## 3. 使用テキスト

ゼミにて必要に応じて指示します。

## 4. 応募学生に望むこと

加速するグローバル化の中で、そのダイナミックな変化に興味を持ち、知的好奇心が旺盛で、積極的にゼミに参加できる地頭に自信がある学生を望みます。無断欠席，遅刻は厳禁です。

## 5. 選考方法

事前課題レポートと SKYPE 面接（長期在外研究にてフランスにいる為）

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

デジタル・テクノロジーの急速な変化についての感度を高めておいてください。そして、ニュースやマスコミで多用されるグローバル化とポピュリズムとは、一体何を意味しているのかについて考えてみておいてください。

## 7. その他

夏休みには2泊3日のゼミ合宿（場所は適宜）を行う予定です。

## 06 尾関 直子 OZEKI Naoko 教授 Prof.

---

### 1. 演習のテーマ

第2言語習得理論です。「小学校に英語教育を導入すると、ほんとうに英語をマスターすることができるのだろうか?」、「日本語は文法を知らなくても話すことができるのに、英語は文法を知っていても話すことができないのはなぜだろう?」。そういう質問にすべて答えてくれるのが第2言語習得理論です。言語の学習方法、言語政策、言語教育など、言語に関係のあることに興味のある学生には楽しい学問です。授業では、理論に偏らず、実生活でどのように活用すればよいかも考えます。

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

**<3年次>**毎週、教科書の担当部分について、グループもしくはペアで発表します。発表する内容は、担当部分の要約、その内容に関して調べてきたこと、担当部分に関しての自分たちの意見や考えです。また、内容に関して、ゼミでディスカッションができるトピックを提供することも必要です。発表担当以外の学生は、教科書の内容に関しての意見や考えをジャーナルに書いてくることが課題となります。ちなみに、授業はすべて英語で行われます。授業の最初に、ジャーナルを交換し、お互いのジャーナルにコメントを書き、その後、発表担当者が発表をし、全員でディスカッションをします。授業は、プレゼンテーションやディスカッションが中心となるので英語力のアップも同時に期待できます。

**<4年次>**就職活動があるので、自分のペースでゼミ論（卒論）を書きます。また、1か月に1度くらいの割合で卒論について発表します。卒論のテーマは、「第2言語習得」に関するだけでなく、「言語」、「国際」、「コミュニケーション」に関係していることがテーマであれば、かまいません。卒論は、日本語でも英語でも、どちらでもよいです。

#### (2) ゼミ論の有無 有

#### (3) 評価方法

3年生 ディスカッションや授業への参加 50%、プレゼンテーション 30%、  
ジャーナル・ライティング 20%

4年生 プレゼンテーション 30%、ゼミ論（卒論） 70%

**3. 使用テキスト** Benati, A. G., & Angelovska, T. (2016). *Second language acquisition: A theoretical introduction to real-world applications*. London: Bloomsbury.

### 4. 応募学生に望むこと

ゼミでは、真剣に勉強します。ただし、ゼミは、勉強する場であるだけでなく、仲間と共に人間的にも成長していく場なくてははいけないと考えているので、ゼミ合宿さまざまなコンテスまた、にも積極的に参加したいと考える、やる気と体力がある学生は大歓迎です☆また、面白い学生も好きです♪

**5. 募集人員** 10名～15名

**6. 選考方法** アンケートと面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）海外に留学中の学生は、アンケートのみです。メールでやり取りします☑

### 7. その他

夏休みにはゼミ合宿をして、研究成果を発表してもらいます。合宿は3年生、4年生と合同になります。勉強をしながら、楽しいゼミにしていきましょう！

# 07 岸 磨貴子 准教授

## 1. 演習のテーマ

教育工学 (Educational Technology) / 学習環境デザイン

本演習では、テクノロジーを活用した「問題解決の学」としての「教育工学 (Educational Technology)」について、その理論と実践について学び、自らが問題解決の主体として実践と研究ができるようになることをめざします。教育というと学校教育をイメージしまいがちですが、学習・発達、協働、知識創出、問題解決は、生涯を通して行う人間の営為です。しかし、私たちは、教師という職につかない限り、これらに関する理論や実践を学ぶことはほとんどありません。加えて、グローバル化・情報化社会においては、越境する学び、異種混交な人との協働、テクノロジーの活用、価値 (情報) 創出、問題解決の力がますます重要になってきます。

本演習では、人が学習・発達の環境 (たとえば「場」「活動」「コミュニティ」) をデザインするための理論と実践を学びます (心理学、デザイン論、エスノグラフィーなど)。ゼミ生の研究フィールドは多様です。学校教育、NPO/NGO の活動、オンラインでの協働、海外 (特に途上国)、難民支援など、ゼミ生の関心に基づいて実践および研究活動を行います。

キーワード: 教育工学、メディア表現、環境デザイン、デジタルコンテンツ、学習心理学、問題解決、越境的対話

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

**<3 年次>** 3 年次では、ゼミ生は自分の興味関心を広げ、深めるために自らプロジェクト (活動) を生み出します。ゼミ生全体で「生み出すことを通した新しい学び」を経験し、それに関する文献 (心理学や学習環境デザインなど) をもとに議論します。

**<4 年次>** 4 年次では、ゼミ生は、自分の研究テーマについて研究を進め、ゼミで報告をします。最終的には卒業論文または卒業制作という形で研究成果をまとめます。

### (2) 卒業研究

ゼミ生は、4 年次に卒業論文またはメディア制作 (電子書籍、映像、ウェブ、マルチメディアなど制作) のいずれかで研究成果をまとめます。いずれに形態においても、文献調査、データ収集、データ分析 (編集)、まとめ (執筆または制作) を行います。

### (3) 評価方法

**<3 年次>** ゼミ活動を通して得た知見の学習記録 (ポートフォリオ)、活動報告・実践

**<4 年次>** 研究報告 (春学期)、卒業論文または卒業制作 (秋学期)

**3. 使用テキスト** 適宜、指示します。

## 4. 応募学生に望むこと

教育関係、国際協力 (教育開発、コミュニティ開発、参加型開発、平和構築など)、社会問題 (難民、貧困など) に関心がある人、教師志望の人を歓迎します。ゼミ以外の時間を使いますので、プレイフルに、協働的に、自分のやりたいことに一生懸命に取り組める人を歓迎します。

## 5. 選考方法

志望動機書と面接によって選考します。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

ゼミ活動はこちらのウェブから知ることができます。

<http://m-kishi.com/seminar/>

## 7. その他

インターネットと社会 AB をゼミ入室後でよいので履修してください。

ゼミでは、英語または日本語を使います。



# 08 金 ゼンマ 准教授

---

## 1. 演習のテーマ

### グローバル化とアジア太平洋地域の政治経済

アジア太平洋地域における政治経済を勉強するゼミです。本ゼミでは、二国間自由貿易協定(FTA)、ASEAN+3、環太平洋経済連携協定(TPP)など重層的に進展するアジア太平洋の地域統合への動向を踏まえ、リージョナリズムの現状と今後の課題について分析する視点を養います。さらにそうした視点を踏まえて、東アジアを含む広義のアジア太平洋地域における国際関係の変化やグローバル化への各国の政策的対応の相違と共通性について、論点の理解を深めることを目的とします。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

毎回、担当者2名が指定文献の担当内容についてレジュメを作成し、発表します。コメントータ2名は、文献に関連したコメントやディスカッションのための質問を提供します。報告レジュメは、報告の三日前までにはゼミのメーリングリストに送り、報告当日にディスカッションを全員参加で行えるようにします。報告とコメント、ディスカッションの使用言語は、英語でも日本語でもかまいません。

#### <4年次>

3年次で得た知識を踏まえ、各自の興味のあるテーマについて調査・研究を行い、卒業論文を作成します。二か月に一度の割合で卒論について発表し、ゼミでのフィードバックを通じて論文を修正・発展させていきます。卒論は、英語でも日本語でもかまいません。

### (2) ゼミ論の有無

研究発表とゼミでの議論を踏まえて、ゼミ論を作成し提出していただきます。

### (3) 評価方法

<3年次> 平常点(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)

<4年次> 平常点(20%)、プレゼンテーション(20%)、論文(60%)

## 3. 使用テキスト

適宜指示します(英語と日本語の文献)。

## 4. 応募学生に望むこと

いま、アジア太平洋地域の政治経済において何が問題となっているのか、知的好奇心を持って積極的にゼミに参加できる学生を望みます。

## 5. 選考方法

小論文(研究テーマ・応募理由)と面接(詳細は個別ガイダンスの際に指示します。)

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

アジア太平洋地域の政治経済情勢に興味を持ち、日々の国際ニュースに接しておくことを期待します。

## 7. その他

本ゼミでは、実践的な視点を養うための、フィールドワークや合宿を行う予定です。韓国の高麗大学・延世大学・西江大学との合同ゼミがあるなどイベントが豊富で、頑張れば頑張るほど得るものが大きくなるゼミです。



## 1. 演習のテーマ / Theme

### Perceptions of host communities and visitors in Japanese tourism development

Japan tourism development has experienced an exponential growth in the past years. The hosting of Rugby World Cup (2019), Olympics in Tokyo (2020) and World Expo in Osaka (2025) are expected to escalate further growth in tourist arrival. As in all tourism development, a sustainable industry is essential to support the economic activities of the country. Local communities' perceptions of tourists and their participation in tourism development are essential to drive a sustainable growth. This course furnishes students with greater understanding of tourism as an increasingly important economic activity for Japan, in addition to the need to mitigate any negative impacts as an outcome of such growth.

## 2. 授業内容 / About the course

### (1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3 年次 / 3<sup>rd</sup> Year> The activities enable students to gain first-hand experience in data collection and analysis and enhance their critical thinking and writing skills. In addition, students will have the opportunities to refine their interactive skills by meeting people from all walks of life, in addition to gaining the opportunity to practice their spoken English.

<4 年次 / 4<sup>th</sup> Year> Students have the option of extending their project from the previous year, or start a new one. The extended project must relate to academic debates that are relevant to the topic under discussion.

(2) ゼミ論の有無 / Thesis Not required

### (3) 評価方法 / Evaluation

<3 年次 / 3<sup>rd</sup> Year> Attendance and participation 40%, Report 60%

<4 年次 / 4<sup>rd</sup> Year> Attendance and participation 40%; Report 60%

3. 使用テキスト / Textbook(s) None.

## 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

Students are required to attend seminar sessions regularly. Be punctual for class. Any student, who is absent THREE or more times, except absences due to the documented emergencies, will receive a fail grade.

## 5. 選考方法 / Screening

Students will submit a short essay (100-200 words) in English describing their interest in this seminar. Please email to [mary\\_quek@meiji.ac.jp](mailto:mary_quek@meiji.ac.jp)

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar None.

## 7. その他 / Others

- Seminar events and additional information will be announced in class
- This syllabus/schedule may change depending on participant demographics and the schedule for field trips. Students will incur small out-of-pocket expenses.
- The seminar may hold excursions to experience fieldwork.

# 10 小谷瑛輔 准教授

---

## 1. 演習のテーマ

### 日本の近現代文学

文学は、読者自身が関心を持って考えていることを映し出す鏡でもあり、それについて学び考えることを助けてくれる、豊かな知の資源でもあります。だから文学研究というのはもしかすると、文学作品を通じて何をどのように考えることもできる、最も自由な学問と言えるかもしれません。そもそも何を「文学」作品と見なすのか（小説や詩のこと？批評や演劇や映画は？ポップカルチャーも？）も、人によって大きく違います。私自身、そうした自由さに惹かれて文学研究の道に進みました。

このゼミでは文学作品を題材に、日本の近現代に産み出されてきたこの知的資源のポテンシャル（日本近現代の知識人はどのような作品を産み出してきたのか、そしてそれを読むことを通して我々は何を考えることができるのか）を最大限に引き出すための技術や方法論を身に付けつつ、相互の関心や知識から学び合い、最終的にはそれぞれが自分なりの研究テーマを設定して成果を出していくことを目指します。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

それぞれが関心のある文学作品を選び、調査や分析を発表して貰い、それを踏まえてディスカッションする形式を中心とします。ゼミ生の希望次第で、文学との多面的な関わり方を知るためのゼミ活動（たとえば小谷のこれまでのゼミでは、同人誌を作ったり、文学作品の中に登場する料理を再現したり、文学散歩や「聖地巡礼」を企画したりしてきました）を取り入れます。一年間を通して、資料調査力、文章の読解・分析力や、レジュメやレポートで自分の考えを論理的にまとめる文章作成能力、プレゼンテーションの技術、ディスカッションのためのコミュニケーション能力を身に付けていきます。

#### <4年次>

各自でゼミ論のテーマを決め、そのテーマについての研究を発表して、ディスカッションを行います。そこで得られた視点や知見を活かして改めて研究を進める、という過程を通して、ゼミ論を完成させていきます。

### (2) ゼミ論の有無 有り

### (3) 評価方法

<3年次>平常点 (40%)、発表 (30%)、レポート (30%)

<4年次>平常点 (30%)、発表 (20%)、論文 (50%)

## 3. 使用テキスト 基本的には、各自が選んだ文学作品を扱います。

## 4. 応募学生に望むこと

ゼミが有意義なものとなるかどうかは、ゼミ生自身の積極的な参加次第です。自分が何をしたいのか、貢献できるのかを考えて、活発にコミットして貰えればと思います。

## 5. 選考方法 面接によって選考します。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

自分は何が好きなのか、何に関心があるのか、色々読みながら追求しておきましょう。

## 7. その他

合宿等の行事はゼミ生の希望に応じて決めます。

# 11 小森 和子 教授

---

## 1. 演習のテーマ

第二言語としての日本語の語彙習得

日本語では「薬を飲む」と言うのに、中国語では「吃（食べる）药」と言い、英語では「take（とる）medicine」と言います。＜薬を体内に入れる＞という同じ現象を表すのに、使う動詞は言語によって異なることがあります。そこで、本演習では、どのような表現が日本語特有なのか、それはなぜか、について考察します。また、教材と担当者を決め、留学生向けの日本語の模擬授業を行い、実践的にも日本語教育を学びます。

さらに、希望する学生には、私が担当する English Track 留学生向け日本語科目「初級日本語」（水曜2限）で、「ゲームで学ぶ初級漢字」の指導を担当してもらっています。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

春学期は、日本語に特有の表現について、なぜ、日本語ではそのように言うのかについて、他の言語と比較しながら、認知言語学の理論を学びながら、考えていきます。秋学期は、春学期で学んだことを基に、全員でテーマを設定し、留学生を対象に調査を行います。

#### <4年次>

実践と理論の両立を目指し、春学期は、論文講読と日本語の模擬授業を行います。秋学期も模擬授業は継続し、さらに、それぞれが研究テーマを設定し、論文を執筆します。

### (2) ゼミ論の有無

有り

### (3) 評価方法

出席と議論への参加（20%）、発表（30%）、レポート（3年次）・論文（4年次）（50%）。

## 3. 使用テキスト

初山洋介（2009）『日本語表現で学ぶ 入門からの認知言語学』研究社他、授業時に指定。

## 4. 応募学生に望むこと

留学生に日本語を教えてみたい人、将来日本語教師になりたいと思っている人、海外で日本語教育に携わってみたい人、大学院で専門的に学びたいと思っている人、大歓迎です。

## 5. 選考方法

筆記試験と面接

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

ゼミ入室までに学部開設科目の「日本語教育学」はぜひ履修しておいてください。

## 7. その他

# 12 佐藤 郁 専任講師

## 1. 演習のテーマ

インバウンドツーリズム、観光による地域活性化

本演習の目的は、身近な観光という現象を通じて、世界の中の日本、日本から見た世界を知ること、そして観光の本質である「地域との関わり」への理解を深めることです。本ゼミでは学生が主体となり、地域や企業と連携したPBL(Project-Based Learning)型の学びを通じて、チームワーク、企画力、交渉力、プレゼン力(「想い」を伝える力)の習得を目指します。同時に、フィールドワークやグループワークを通じて、様々な立場や範囲から物事を多角的にとらえる視点を養います。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

- 前半は、観光に関わる企業や行政機関と連携し、観光の地域での役割やターゲットに合わせた観光情報の発信の仕方について学びます。さらに、4～5名のグループ単位でフィールドワークを実施し、中野区の観光資源を発掘して、その魅力を観光情報サイトで発信してもらいます。
- 後半からは、課題解決型のプロジェクト学習が中心となります。提示された課題に基づき、中野区で訪日外国人観光客を対象にしたプロジェクトの企画・立案をグループに分かれて行います。最後に、観光に関わる企業や行政機関の方々に向けてコンペ形式のプレゼンテーション大会を実施します。

#### <4年次>

観光に関するテーマを各自で設定し、最後にゼミ論をまとめる。全体で構想発表、中間発表および最終発表会を実施します。

### (2) ゼミ論の有無

有

### (3) 評価方法

3年次：平常点(40%)、グループ発表及び議論への貢献度(30%)、最終レポート(30%)  
によって総合的に評価する。

4年次：平常点(10%)、発表(30%)、論文(60%)によって総合的に評価する。

## 3. 使用テキスト

特に指定しない。その都度必要なものを配布する。

## 4. 応募学生に望むこと

地理の基礎的な知識があることが望ましい。(3年次は特に)グループワークによるプロジェクト型学習が中心となるので、フットワークが軽く、チームでの作業に積極的に取り組める方を希望します。共創型ディスカッションを通じて、ゼロから新たなアイデアや価値をつくるプロセス、未来志向のビジネスや地域活性化に興味のある方を歓迎します。

また、授業時間外にチームで主体的に活動することも多くなりますので、それを前提に履修するようにしてください。授業時間外で地域視察などを行う場合もあります。その他、希望により授業時間外に複数の任意参加のプロジェクトを設定することがあります。何事にも積極的に参加できる方を希望します。

## 5. 選考方法

筆記試験及び面接。2年次春学期までの成績も参考にする。

(海外留学中の場合は、レポート試験・志望動機書・自己紹介書による選考を行う。  
2年次春学期までの成績も参考にする。)

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

「ツーリズム・マネジメントAB」を履修しておくことが望ましい。観光や地域活性化に関わるニュースメディアや書籍に興味をもち、常にアンテナを張っておいてください。

## 7. その他

連携機関の都合や受講生の要望・理解度により、内容を変更する場合があります。

# 13 白戸 伸一 教授

---

## 1. 演習のテーマ

流通・マーケティング戦略とまちづくり

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

2つのテーマで共同研究します。第1は日本の流通・マーケティングの特質、強みをケース・スタディと発達史から学びとること、第2は21世紀の課題と言える現代都市の「まちづくり」を流通面から検討することです。日本では、総合商社や「オムニ・チャンネル」を目指す大手小売企業、そして世界ランキング上位にも登場する有力企業がありますが、その特質やマーケティング戦略を検討します。その上で流通と市民生活の主要な場である魅力的でコンパクトなまちづくりについて、様々な事例を通して検討します。

3年次は主に文献や資料、さらには企業訪問等による研修を通じて調査や研究の方法を学びます。そのために、個人もしくはグループで調査・研究をおこない、その成果を報告してもらいながら全体で共有できるようにします。発表テーマを決めて、ケース・スタディ（事例研究）を含む研究に取り組んでもらいます。

#### <4年次>

個人及びグループで研究テーマを決め、国際比較を取り入れながら、それぞれの調査・研究を継続しつつゼミで中間報告をおこない、最終的にはゼミ論にまとめてもらいます。

### (2) ゼミ論の有無

有り

### (3) 評価方法

<3年次>平常点(40%)、発表(30%)、レポート(30%)

<4年次>平常点(25%)、発表(25%)、論文(50%)

## 3. 使用テキスト

『ケースで学ぶマーケティング [第2版]』井原久光 ミネルヴァ書房

『日本の流通・サービス産業 一歴史と現状一』廣田誠 大阪大学出版会

『地域の再生と流通・まちづくり』日本流通学会監 白桃書房

## 4. 応募学生に望むこと

自説を論文としてまとめ上げることができた時の達成感をぜひ味わってほしい。そして、ゼミという共同研究と青春の重要な出会いの場で、生涯忘れ得ぬ宝物を見つけたい。

## 5. 選考方法

小論文と面接

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

社会や経済に関する時事問題に対し、事実関係を理解しつつ自分の意見が述べられるよう努力してほしい。

## 7. その他

ゼミ合宿及び必要に応じて企業訪問や調査をおこないます。

# 15 鈴木 賢志 教授

---

## 1. 演習のテーマ

スウェーデンに発信し、スウェーデンから学ぶ

本演習は、スウェーデンに焦点を当てた「国際日本学」の実践を目的とする。すなわち、①日本に興味を持つスウェーデンの人々とのコミュニケーションを通じて、彼らが日本をどのように認識しており、どのような情報の発信が望まれているのかを理解し体感する。さらに②スウェーデンから日本が何を学べるのか、また日本の文化や社会システムの現状に照らして、実際にどこまで取り入れることができるのか、その可能性や限界について考察する。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

春学期は、スウェーデンについての基本的な知識を吸収しつつ、スウェーデンの人々との交流や大使館でのイベントなどの様々な機会において、スウェーデンの人々が日本や日本人をどのように認識しているのか、どのような情報が求められているのかを、実践を通して学んでいく。秋学期は、春学期の経験を踏まえて、スウェーデンと日本の比較についての学びをさらに深めていく。

#### <4年次>

春学期は、スウェーデンから日本が何を学べるのか、また日本の文化や社会システムの現状に照らして、実際にどこまで取り入れることができるのかについて議論し、それをどのような形で卒業発表に結実させるかについて討議し、計画を策定する。秋学期は、策定した計画に基づき、スウェーデン大使館において、主にスウェーデンに興味を持っている日本人を対象として行われるスウェーデン社会研究所のセミナーとして卒業発表を行うべく、その準備を行う。

なお授業では、スウェーデンと日本の現状や社会システムについての解説や、スウェーデンの人々とのコミュニケーションや研究に役立つよう、初歩的なスウェーデン語の講義を織り交ぜていく予定である。

### (2) ゼミ論の有無

上記のゼミ活動を通じて得た知識をもとに論文執筆を希望する者については指導を惜しまないが、執筆を必修とはしない。

### (3) 評価方法

各期の発表、レポート、および授業への取り組みを考慮に入れて評価する。

## 3. 使用テキスト

特に指定しない。

## 4. 応募学生に望むこと

ゼミの活動は、スウェーデン大使館のイベント参加や現地での研修(参加は任意)など様々な広がりをもって行うので、座学に限らず、何事にも積極的に取り組む方の参加を望む。

## 5. 選考方法

小論文(応募理由)の評価を中心に、2年次春学期までの成績を参考にしつつ選考する。場合によっては面接を実施する。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

鈴木担当科目を履修している方が望ましい。

## 7. その他

# 15 瀬川 裕司 教授

**2020 年度春学期は教員が在外研究で日本にいないため、秋学期に「演習(3 年)A」「演習(3 年)B」を実施します(連続して2コマの授業をおこないます)ので、ご注意ください。**

## 1. 演習のテーマ

高度な批評能力を身につける

本を読んだあと、あるいは映画を観たあとに、「面白かった」「つまらなかった」といったカタコトの〈感想〉ではなく、自分の意見を論理的に展開できる大学生は少ない。〈コメント力〉あるいは〈批評力〉は社会人になってからも重要なものだが、わが国の学校教育では、この能力の養成は軽視されてきた。このゼミでは、小説、演劇、映画、絵画、音楽などあらゆる対象に的確な言葉で批評をおこなえる能力を養うことを目標とする。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

**<3 年次>2020 年度にかぎり、春学期は授業をおこなわず、秋学期に「演習(3 年)A」「演習(3 年)B」の2コマを実施します。**

毎回の授業に対してひとつの映画作品、小説などを指定する。参加者は、授業日までにその作品に接し、資料を見るなどして批評文を用意する。授業時には、参加者はたがいの批評を比較して意見を交換し、分析能力の向上をめざす。参加者の希望に応じて、演劇や音楽なども考察の対象とする。映画がテーマとなる場合は、テーマを決めて何本かの作品を続けて研究したい。

**<4 年次>通常通り、春学期に「演習(4 年)A」、秋学期に「演習(4 年)B」を開講します。**

各参加者が、中心に据えて研究したい映画作家・小説家・ジャンル・アーティスト等のテーマを決めてゼミに臨む。毎週の授業では、ひとりもしくはふたりが自身のテーマに関連する批評文・レポートを提示し、口頭発表をおこなったのち、全員でその内容について意見を交換する。必要な場合には、授業時間中に関連作品をDVD等で鑑賞する。最終的に、そういった発表をまとめるかたちで年度末にゼミ論が提出されることが望ましい。

### (2) ゼミ論の有無

参加者は原則として学年末にゼミ論を提出してほしいが、ゼミ論執筆を希望しない場合は、レポート提出、口頭発表等で代用できる。

### (3) 評価方法

**<3年次>** 毎回授業時の批評文および発表で評価する。

**<4年次>** 毎回授業時の発表(65%)、学期末のレポートもしくはゼミ論(35%)で評価する。

**3. 使用テキスト** 授業時に指示する。

## 4. 応募学生に望むこと

映画や文学、演劇など国内外の文化全般に関心があり、文章を書くのが好きで、積極的に意見を述べられる学生、もしくはそのようになりたいと考える学生が望ましい。

## 5. 選考方法

必要な場合には、アンケートなどを実施する場合もある。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

蓮實重彦(はすみ・しげひこ)氏の映画関係の著作を演習開始前に2冊程度読んでおくことが望ましい。

## 7. その他

# 16 田中 絵麻 専任講師

---

## 1. 演習のテーマ

### コンテンツ産業論・ICT 政策論

日本が抱える様々な課題に取り組んでいくに当たり、情報通信技術（Information and Communications Technology: ICT）の活用が期待されています。ただし、ICT の利活用においては、技術開発のみならず、企業の活動、社会的受容やその発展をささえる制度が不可欠です。本演習では、AI 技術の導入も視野に入れつつ、ICT 技術とプラットフォームがどのように社会を変化させているのかを、主にメディア産業やコンテンツ産業を対象として、日本と諸外国の比較の視点からアプローチし、公益に資する ICT の活用とはなにか、また、ICT 産業にかかる政策のあり方を考えることをテーマとしています。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3 年次>

- ・春学期：スコット・ギャロウェイ『the four GAFAs 四騎士が創り変えた世界』の輪読。  
グループでテーマを設定・調査・報告し、全員でディスカッション。
- ・秋学期：アレックス・モサド等『プラットフォーム革命』の輪読。  
個別テーマに取り組み、調査を行い、レポートを作成・発表。

#### <4 年次>

- ・ゼミ生の関心に応じて、より応用的なテキストの輪読と卒論指導を行います。

### (2) ゼミ論の有無

有り（春学期資料、秋学期レポート集）。

### (3) 評価方法

- <3 年次>ゼミへの参加度（30%）、グループワーク（35%）、個別報告（35%）
- <4 年次>ゼミへの参加度（30%）、卒論（70%）（予定）

## 3. 使用テキスト

上述のとおり。

## 4. 応募学生に望むこと

好奇心と行動力を持ちつつ、社会に貢献する意欲のあること。

## 5. 選考方法

ゼミ志望動機にかかるレポートと面接。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

演習担当教員の学部科目（コンテンツ産業論／テクノロジーと日本）を履修していることが望ましいです。

## 7. その他

ゼミ合宿を実施する予定です。



# 17 田中 牧郎 教授

---

## 1. 演習のテーマ

### 日本語の歴史と現在

日本文化の基本であり、日本社会がよって立っている「日本語」を、歴史的視点を踏まえて研究します。3年次では、どのような歴史を経て現在の日本語の姿になってきたかを研究し、4年次では、現代社会と日本語の関連を研究するとともに、各自の研究を卒業論文にまとめていきます。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

日本語は、原始時代に日本列島に住み着いた人々の話し言葉として始まり、漢文と出会って書き言葉を持ったことで、平安時代までに言語文化を花開かせ、世界に誇る『源氏物語』を生み出しました。明治時代には西洋語の翻訳や、文体改革を経て、近代的な言語に変貌しました。日本語の変遷の具体的過程を、文献調査（古典を読む）、コーパス調査（データベースを調べる）、フィールド調査（話し言葉を聞き取る）の方法論を身に付けながら研究します。これらを通して、日本語の研究方法を身に付けていきます。

#### <4年次>

現在の日本語を、例えば、作家や政治家の言葉は、どのようにして読み手や聞き手の心に届く（届かない）のか、報道や広報の言葉は、不特定多数の大衆に伝わるように、どのように工夫されている（工夫が足りない）のかなど、社会と日本語の関わりについて具体的な事例を取り上げて調査・分析していきます。また、各自が取り組む個別のテーマを決め、卒業論文にまとめます。

(2) ゼミ論の有無 有り。

### (3) 評価方法

3年次、4年次とも、ゼミ活動への参加状況とレポートを総合して評価します。

## 3. 使用テキスト

テキストと参考図書などは、その都度指示します。

## 4. 応募学生に望むこと

よく調べ、よく考えることを求めます。

## 5. 選考方法

面接によって選考します。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

古典に親しむ、外国語と日本語を比べる、ニュースの言葉に関心を持つ、言葉遣いに敏感になることなどで、日本語研究への動機づけを高めておいてください。

## 7. その他

夏休みに国内で合宿を行う予定です。大学院生と共同の研究活動も行います。

# 18 旦 敬介 教授

---

## 1. 演習のテーマ

ラテンアメリカ文化研究。2020年度はキューバを中心とするカリブ海地域研究に取り組みたい。

このゼミは、ラテンアメリカとカリブ海の国と地域に何か世界を変えるヒントがあるのではないか、と予感している人たちが、その文学や音楽などの芸術文化、あるいは歴史や社会、生活文化の成り立ちなど、様々な領域について調査研究する場である（このゼミでは「ラテンアメリカ」とは、アメリカ合衆国とカナダ以外の米州全域というとらえ方をしている）。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

**<3年次>**春学期の前半は受講者それぞれがすでにもっている知識・関心を共有する（教えあう）一方で、テキストと一緒に読むことによってこの地域に関する基本知識を身につける。春学期後半からは各自の興味にそってキューバ等の国のさまざまな側面について手分けして調査・発表して知識を広げていく。秋学期からは関連する本や音楽、映画などについても、教室内で共有し、議論していきながら、それぞれの関心のありかを絞りこんでいく。三年次終了までに仮の論文テーマと構成を決める。論文主題はキューバ関連に限らない。基本的には受講者の願望を尊重する。

**<4年次>**各受講者の関心領域について、主題を絞って12月末までにゼミ修了論文を書くことを主たる活動とする。論文の構成や書き方、調査方法についても指導する（論文といっても特別な書き方があるわけではない）。ただし、その他の形式の活動・制作（文学・芸術・社会活動など）をもって代替することも場合によって認める。ラテンアメリカへの旅の企画を一定の主題に基づいて企画・立案・実現・報告するという課題もありうる。

**(2) ゼミ論の有無** 原則としてあり。しかし、他の活動で代替することも認める。前項参照。

### (3) 評価方法

**<3年次>** 授業時間内の活動および調査発表活動（70%）、授業時間外の課題（30%）で評価する。

**<4年次>** 授業時間内の活動（70%）、学期末（学年末）の課題（30%）。

## 3. 使用テキスト

増田義郎『物語ラテンアメリカの歴史』（中公新書）、清水透『ラテンアメリカ500年』（岩波現代文庫）ほか。

## 4. 応募学生に望むこと

ゼミは参加者が形づくるものである。自分の関心のある主題について自発的に調査するのが主眼である。

「ラテンアメリカの歴史と文化」あるいは「Latin American Studies」の授業をすでに2セメスター履修していない人は、2019年度じゅうにかならず履修すること。参加者にはなるべく在学中にラテンアメリカの国を訪問する機会を作ってほしい。

## 5. 選考方法

これまでの経験や関心領域に関する面接と筆記による。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

世界の国の名前と位置ぐらいはわかる基礎的な地理の知識がないのは困る。この地域に関連して、関心のある固有名詞（人名）について、ある程度の客観的知識を持つておくこと。

## 7. その他

担当教員はラテンアメリカの現代文学の専門家だが、現在の主な関心は、ラテンアメリカ（とくにブラジル）のアフリカ系文化にある。現在、キューバの文学作品を翻訳している関係で、関心がキューバに向いているが、受講者の関心や活動をそこに限定するものではない。

# 19 張 競 教授

---

## 1. 演習のテーマ

比較文学比較文化特別研究

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

この演習は、将来ゼミ論や卒業発表の作成を視野に入れ、比較文学比較文化に関する問題について研究を行う授業である。文学や文化の受容および変容、文化衝突の問題が主たるテーマだが、ゼミは三つの段階に分けて進める予定である。

まず、前述のテーマと関連する資料を講読し、資料の読解や分析、批評およびグループ・ディスカッションを通して、比較文学比較文化研究とは何かを理解する。

次に、ゼミで講読した資料にもとづいて、テーマを選び、ゼミ生が関連することについて調査し、その結果をゼミで発表する。

右の作業を通して、問題の見つけ方、検証および資料調査の仕方を身につける。最後に、ゼミ生が自ら課題を見つけ、資料調査などを行った上、その結果をゼミで発表する。それぞれの報告について、全員でディスカッションを行い、そうした議論を踏まえて次の課題を見つける。そうした一連の作業を通して、比較文学比較文化の基礎的な研究に必要な方法を習得する。

スケジュールは基本的にゼミ生と議論の上で決めるが、最初の数回はテーマの設定、文献調査、資料収集、現場調査、データの処理、口頭発表、論文執筆の時期や基礎的な作業の方法および研究の進め方について勉強する。

#### <4年次>

この演習は3年次の継続で、ゼミ参加者は自分の設定したテーマについて研究を行う授業である。基本的な進め方は3年次と変わらない。ゼミ論を提出する履修生には春学期に中間発表をし、秋学期のはじめにゼミ論か卒業発表の草稿を提出するのを目指してほしい。

### (2) ゼミ論の有無

ゼミ論の提出が望ましいが、必須条件ではない。

### (3) 評価方法

<3年次>平常点50%、発表50%

<4年次>平常点50%、発表および論文50%

## 3. 使用テキスト

必要なときに随時に指示。

## 4. 応募学生に望むこと

積極的に授業参加し、3年と4年の合同演習にも参加すること。

## 5. 選考方法

筆記試験と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと。

特になし。

## 7. その他

合宿等はゼミ生と相談の上決まる。

# 20 長尾 進 教授

---

## 1. 演習のテーマ

### スポーツと現代社会

2020年に、夏季オリンピック・パラリンピックが東京で56年ぶりに開催されます。日本や東京がこの五輪とどう向き合い、レガシーを遺せるかが注目されていますし、そのあり方を考えることは、ゼミとしての大きなテーマです。また、多くのスポーツにおけるビデオ判定方式の導入や、Eスポーツ、スポーツとジェンダーの関係など、スポーツの在り方そのものが変わりつつあります。そうした時代の変化とスポーツとの関係性について議論を深めることも、ゼミの特徴です。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

学期前半は、長尾からその時々をスポーツをめぐるトピックを提供します。それをもとに討議し、理解を深めます。中盤は、皆さんが探してきたトピックをもとに討議し、理解を深めます。後半は、各自何か一つのテーマを掘り下げ、資料を集めて分析し、プレゼンテーションをしてもらいます。学期末には、それらをレポートとしてまとめます。3年次・4年次とも基本的な進め方は、上記の通りです。

### (2) ゼミ論の有無

国際日本学部は留学する人も多いので、各学期末において、期末レポートを提出してもらいます。その時々をテーマによる学期完結型のレポートでもかまいませんし、4学期継続したテーマでもいいです。

### (3) 評価方法

平常点（討議への関心度、意欲）30%、プレゼンテーション（資料収集・取材意欲を含む）30%、期末レポート40%

## 3. 使用テキスト

テーマに関わりのある資料や書籍、URLなどを、そのつど紹介します。

## 4. 応募学生に望むこと

プレゼンにしても、レポートにしても、「現場」での取材や一次資料が大きな説得力を持ちます。スポーツ場面への実際の取材（アンケート、インタビューほか）など、アクティブな姿勢を望みます。

## 5. 選考方法

募集定員をめどに、選考します。関心のあるスポーツ関連のテーマと、そのテーマを選んだ理由を記述する欄を含む、エントリーシートを書いてもらいます。基本的には、そのエントリーシートをもとに選考します。必要に応じて面接を行う場合もあります。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

2020五輪をはじめ、皆さんがゼミに所属する2年間は、ビッグイベントが続きます。これらのニュースに日ごろから関心をもって接してください。

## 7. その他

冬季休暇中（12月下旬～1月初旬）にゼミ旅行合宿（1泊2日または2泊3日程度）を行います。研修先は、皆さんと話し合ってから選定します。

# 21 沼田 優子 NUMATA, Yuko 特任教授

---

## 1. 演習のテーマ / Theme

Japanese Business Organizations in the Global Market

This seminar offers a quasi-business experience with advice from business professionals as well as lectures and discussions. Third-year students will set up a virtual student company using an educational program created by one of the world's largest global non-governmental organizations established in 1919. The NGO serves more than 10million students worldwide. Fourth-year students will spend more time in the classroom, where they will link their experiences to academic theories and frameworks.

## 2. 授業内容 / About the course

### (1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3年次 / 3rd Year> Students will set up a virtual student company, run a business, and liquidate it at the end of the year. Business practitioners, acting as external board members, will visit frequently to provide advice. At the end of the year, the students will organize the minutes from discussions by department, hold an annual shareholder meeting, and write an annual report before liquidating the virtual company.

<4年次 / 4th Year> Students will choose a topic related to their student company experience, read relevant papers and case studies, and present these in a way that bridges their experience with academic theories and frameworks. Case studies may also be used for class discussions. In addition, several classes may be spent mentoring third-year students regarding the student company.

### (2) ゼミ論の有無 / Thesis

No. However, it will be strongly recommended if you apply for graduate schools.

### (3) 評価方法 / Evaluation

<3年次 / 3rd Year> Class Participation(40%), Minutes(40%), Annual Report(10%), and Peer Evaluation(10%)

<4年次 / 4th Year> Class Participation (40%), Short Essays or Case Studies(30%), Presentation or an Equivalent Task(20%), and Peer Evaluation (10%)

## 3. 使用テキスト / Textbook(s)

To be announced. These will vary depending on the students' functional roles.

## 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

The seminar sessions will be in English only. All materials, lectures, class discussions, presentations, and writings will be in English. However, Japanese speakers are also welcome, as many stakeholders such as customers are likely to be Japanese. It is up to the students' company policies to address how language barriers will be overcome. Indeed, this is a common challenge for international companies. To make this seminar more manageable for Japanese speakers, I am happy to provide Japanese support outside of the class. Since we will function like a business, we will have to meet frequent deadlines. Inefficient use of time may necessitate staying/working after hours.

## 5. 選考方法 / Screening

If more than 20 students apply, you will need to create an English presentation that describes your business ideas, the functions in which you want to engage, and how you can contribute to the seminar.

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

Taking Business Administration A & B and Practicum in Global Japanese Studies C & D is strongly recommended. Most of the content covered in those courses will be applied to the operation of the student company.

## 7. その他 / Others

This syllabus/schedule is subject to slight changes depending on participant demographics, the schedule for non-lecture activities, and ongoing business events. Students may incur small out-of-pocket expenses.

## 22 萩原 健 Ken Hagiwara 教授

【注意 Notice】基本的に日本語で行いますが、英語の使用も歓迎します。Basically, this seminar will be held in Japanese, but English is highly welcome.

【Special note for German speakers】Während die Diskussionssprachen Japanisch und Englisch sind, ist es auch möglich, Arbeiten auf Deutsch zu schreiben.

### 1. 演習のテーマ / Theme

#### “Performances” in Daily Life and Art Scenes

“I am sure I gave a good performance during the interview”. - Haven’t you heard such expression? But what is a “performance”? Doesn’t it depend on audiences, situations, countries or cultural contexts, whether a performance is good or bad? On the other hand, “performance” can be a genre of art. After watching the performance, writers report saying for example: “This performance was so bad it can be ignored.” “Performances” in daily life and art scenes - The one in daily life can serve as a reference when thinking about the one in art scenes and vice versa. This is the core concept of this seminar. Each student is expected to research a theme related to the term “performance.”

### 2. 授業内容 / About the course

#### (1) 授業の進め方 / How the course is conducted

Each student is required to write a statement based on her/his own interest and then write a thesis. The core activities in each session are reporting about working processes and exchanging opinions among the students.

#### <3 年次 / 3rd Year>

[Spring semester] After some introductory activities in the first sessions, each member introduces a book or an article that interests her/him. Together with this book or article, 10 sources should be listed with comments. Then the students select quotes from the 10 sources (They should be used in the thesis) and write the statement (This will be the conclusion of the thesis). The source list with comments, quotes and the statement will be the term paper (A) which has to be submitted at the end of the semester.

[Fall semester] The members work on the structure of the thesis based on the term paper (A). A table of contents should be written including descriptions on the content of each chapter. After finishing the table of contents, each student starts writing the thesis. In the sessions, each student introduces a part of her/his thesis. Its content and next working steps will be discussed in class. The completed thesis has to be submitted at the end of the semester.

#### <4 年次 / 4th Year>

Each student revises the submitted thesis by using 10 more sources, or writes a completely new thesis by using 20 sources. The working process is same as that of the third year.

#### (2) ゼミ論の有無 / Thesis

Required

#### (3) 評価方法 / Evaluation

<3rd Year> Contributions made during each session (30%), presentations (30%), thesis (40%)

<4th Year> Spring semester: same as during the 3rd year; Fall semester: Contributions during each session (20%), presentations (20%), thesis (60%)

### 3. 使用テキスト / Textbook(s)

Depending on each student’s research topic, references will be recommended in class.

### 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

Active participation during class and doing homework are basic requirements. Being absent or being late for class without any prior notification will have an effect on students’ grades.

### 5. 選考方法 / Screening

Submitting a short report (approx. 1000 letters in Japanese or 500 words in English) and taking an interview. The report must be sent by email to [hagi@meiji.ac.jp](mailto:hagi@meiji.ac.jp) until two days before the day of the interview. The topic for the short report is: The relation between (a) the term “performance”, (b) your current interests and (c) your future vision after graduation. 【注意 Notice】作文を送る際のメールの書かれ方も選考のための材料です。Please note that the style of your email will also be taken into consideration when submitting your report.

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

Please read at least three books related to the topic “performance”. Every time you finish one book, please report about it (author, title, year of publication, publisher, content and your own opinion) by email ([hagi@meiji.ac.jp](mailto:hagi@meiji.ac.jp)).

### 7. その他 / Others

Depending on students’ interests, trips will be held. Students will also occasionally watch (stage) performances.

# 23 藤本 由香里 准教授

## 1. 演習のテーマ

サブカルチャー／ジェンダー／表現／社会

マンガ・アニメ・ゲームなどの日本のサブカルチャーはいったいどんな特性を持ち、世界の中でどのような現状にあるのでしょうか？ また、歴史的にはどう発展してきて、それを生かしていくためには、どういうことが必要なのでしょう？ この演習では、「大衆」によって支えられるがゆえに、その意識や社会の変化を反映しやすいサブカルチャーを題材に、その表現のあり方と社会意識や文化との関係を探っていきます。「文化」と「市場」両方に目を向けるところに特色があり、具体的には、日本のサブカルチャーの特性、歴史的な発展過程、海外市場をどう見るか、ジェンダーと表現などについて関連文献を読み、ディスカッションすることでそれぞれのテーマについて考えを深めていきます。その中で4年次の卒論のテーマをそれぞれが見つけ出し、調査→発表→ディスカッション→フィードバックによって、自分なりに何かが「見えてくる」ときの喜びに出会ってもらいたいと思います。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

前期はこれまで、「日本の戦後とサブカルチャー」を縦軸に、「日本のサブカルチャーの特性」と変わりゆく「サブカルチャーと海外市場」、すなわち“クールジャパン再考”を横軸にディスカッションを行ってきました。しかしここ数年、ポップカルチャーの市場はデジタル化の促進で激変しています。今年のゼミでは、いったい今、何が起きつつあるのか、未来のポップカルチャーはどのような形に変わっていくのかを積極的に考えていきたいと思います。BL やジェンダーの問題も扱います。後期は具体的な<仕事>と国際性について、マンガ・アニメ・小説・ドラマなどのコンテンツをベースに発表してもらい、就活も見据えて<仕事>について考えます。

#### <4年次>

4年次においては卒業論文の準備、執筆がメインになりますが、ゼミ生の興味をにらみながら、文献講読や個人発表、グループ発表なども並行して行っていくつもりです。合宿や課外活動等については3年次のゼミ生や院生と一緒にすることもあります。

### (2) ゼミ論の有無

有。2万字以上の卒業論文をまとめ、ゼミ全体の卒論集を制作する予定です。

### (3) 評価方法

発表（50%）、ディスカッションへの貢献度（40%）、その他（10%）。

## 3. 使用テキスト

東浩紀『動物化するポストモダン』『観光客の哲学』、マーク・スタインバーグ『日本はなぜ<メディアミックスする国>なのか？』クリス・アンダーソン『フリー』、落合陽一『魔法の世紀』、ジョゼフ・ナイ『ソフトパワー』、ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』など。

## 4. 応募学生に望むこと

ゼミは皆さんが作るものです。ディスカッション等、ぜひ積極的な参加を希望します。

## 5. 選考方法

志望動機書と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明します。

## 6 ゼミ入室までに学んでおいてほしいこと

『漫画文化論』AB は入室までに受講しておくことが望ましい。必修等でどうしても取れない場合は、入室後すみやかに履修すること。

## 7 その他

2泊3日程度でゼミ合宿を行います。3年次は京都国際マンガミュージアムを含む関西方面のことが多いですが、秋田に行ったこともあり、4年では仙台・箱根・上諏訪……など多彩です。

### 1. 演習のテーマ / Theme

Japanese Arts in Global Perspective

### 2. 授業内容 / About the course

#### (1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3年次 / 3<sup>rd</sup> Year> and <4年次 / 4<sup>th</sup> Year>

This seminar aims to publish a booklet titled <Japanese Arts in Global Perspective>. Students are required to survey Japanese artists or non-Japanese artists based in Japan, including artists, musicians, designers, curators, gallerists, creative directors, editors and other professionals, active in global art scenes and make presentations on him/her/them. At the end of the spring semester, we will discuss a table of contents and contact artists for interviews. Based on our collaborative research and interviews, we will edit, design and publish a booklet in the fall semester. Since the booklet is to be bilingual (EN/JP), students who are more fluent in Japanese language than English are highly welcomed. Also, this seminar is open to students studying abroad as they can contribute to the booklet by surveying local reference and/or interviewing foreign professionals on the theme. They might be asked to make presentations and to participate in editorial meetings via online.

#### (2) ゼミ論の有無 / Thesis

Not required.

#### (3) 評価方法 / Evaluation

<3年次 / 3<sup>rd</sup> Year> and <4年次 / 4<sup>th</sup> Year>

Class participation (40%), Presentation (30%), Booklet (30%)

### 3. 使用テキスト / Textbook(s)

To be individually advised.

### 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

To be individually advised.

### 5. 選考方法 / Screening

Students will be selected through an interview. A letter of self-introduction (A4 1-2 pages, English or Japanese) must be sent by an email with a title of name and student number to majungyeon@meiji.ac.jp before the interview. During the interview, students will be required to talk about 1-2 interviewees and the reasons for their choices.

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

Please think about current interests and future plans.

### 7. その他 / Others



# 25 溝辺 泰雄 准教授

## 1. 演習のテーマ：「地域研究(Area Studies)：食と旅から世界を知る」

2020-21 年度の溝辺ゼミは、「世界の食」をテーマに、世界と日本に関する理解を深めることを目指します。演習の参加者がアフリカを含む世界各地へそれぞれ個別に赴き、そこで味わった食を通して、文化や歴史、さらには開発や国際関係に関する諸問題を考えていきます。毎週のゼミの時間では、プレゼンテーションやディスカッションなどを通して互いに交換しあうだけでなく、料理会をはじめとする実習や、学内/学外のイベントでの報告や旅行記の執筆・出版などを通して、広く一般の方々とも共有する機会も設けます。また、自分たちの経験だけでなく、これまでに世界中で出版されてきた「食」に関するさまざまな出版物を読み、異文化を体験・理解することの面白さだけでなく、そこで生じる誤解や偏見などの問題点についても深く考えていく予定です。

## 2. 演習内容

### (1) 演習の進め方

2020 年度末の成果報告と 2021 年度末に予定している「世界の食」をテーマにした本の出版に向けて、年度の始めにテーマや日程を決め、それに向けて皆で役割分担をしながら活動を進めます。2019 年度の 9/10 期生の活動は次のリンクから確認できます：

[https://www.instagram.com/meiji\\_africa\\_seminar/](https://www.instagram.com/meiji_africa_seminar/)

\*1 年間の主な活動は以下のとおりです：

- 料理会(4 月と 12 月頃)：自分たちでテーマを決め、料理で世界を旅します
- 学外実習(6~7 月頃もしくは 12~1 月頃)：個別もしくは小グループ別に、異なるルートで最終目的地を目指す旅をおこない、最後に皆で集合してそれぞれの旅の経験を共有します。その上で、地産地消をテーマに、現地で食材を集めて料理を作ります(これまでの最終目的地は、京都、熊本、石垣島、瀬戸内しまなみ海道、鹿児島、佐渡島などでした)
- 成果報告の出版(秋学期)：教室展示などの形で研究や活動の成果を発表します
- 研究活動発表会(1 月か 2 月)：自ら料理を作りながら 1 年間の活動報告会をおこないます
- 旅本の作成と出版(4 月~2 月)：「旅」を通して得た学びを 1 冊の冊子にまとめます

サハラ以南アフリカを含む世界のなかの特定の地域について本格的に学術研究をされた方のために、任意参加の<論文ゼミ(アフリカ研究会)>も設けています(この論文ゼミへの参加は全員必須ではありません)。きちんとした学術論文作成に向けて、個別研究従事する学生たちと教員の間で綿密に議論と重ねて考察力・分析力を養っていきます。

### (2) 卒業研究

希望者のみ：芸術活動やボランティア活動など論文以外の形式での卒業研究でも構いません。これまでには、アフリカ滞在の旅行記・写真集の作成や創作衣装の制作と発表会、バンドを組んでのオリジナル楽曲の発表などの形式で卒業研究をおこなったメンバーもいます。卒業論文を執筆する場合は、通常の演習とは別に設ける「論文ゼミ(アフリカ研究会)」において、研究課題の設定から調査・研究、論文の作成まで時間をかけて丁寧に作業を進めていきます。研究のテーマはアフリカやその他世界の諸地域に関する内容であれば、衣食住から歴史文化、政治経済など自分の関心に応じて設定することが可能です。過去の卒業研究のテーマについては次のリンクから確認できます：<https://africakenkyukai.myportfolio.com/>

### (3) 評価方法

演習活動への積極性に基づき評価します。

## 3. 使用テキスト

入室決定後にお伝えします。

## 4. 応募学生に望むこと

参加の条件は、国内外を問わず「旅」と「食」への強い関心と世界のさまざまな課題を探求し、学ぶ意欲の有無です。料理と調理に関心がある方(上手でなくても大丈夫です)や世界の諸文化に対する先入観にとらわれていない方も歓迎します。また、可能であれば、個人旅行(もしくは留学・スタディーツアー・インターンシップ)などの機会を利用してサハラ以南アフリカでの生活を経験してもらいたいと考えています(ただし、必須課題ではありません)。これまでに 30 名以上の学生が、アフリカのさまざまな国々を訪れています。彼らの旅の一部はここ(<https://africakenkyukai.myportfolio.com/travels-1>)で紹介しています。

## 5. 選考方法

書類審査と面接で選抜します。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

アフリカにはこだわらず、まずは自分の関心のあることをとことん勉強しておいてください。

## 26 美濃部 仁 教授

---

### 1. 演習のテーマ

哲学。(このゼミは、参加者がそれぞれ自分の関心にしたいがい、あるいは自分の関心をさぐりつつ、自分を取りまく世界や自分自身の中に問題とすべきことを見出し、それをその根源にまで立ち戻って明らかにする——それが哲学ということですが——ということを中心におこなわれます。その準備として全員で一冊の本を読む、というようなこともしています。どのような問題にどのように取り組むかは各人の自由に任せられていますが、私がこれまで主に勉強してきたのは、哲学、宗教学、倫理学等ですので、専門家として助言ができる領域はそのあたりに限られています。)

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

この授業は、参加者の哲学的関心に沿う形で進めます。ですから、予め「進め方」を細かく決めてはいませんが、ほぼ次のようなことを考えています。

<3年次>

春学期のゼミの進め方については、最初の回に皆で相談して決めます。皆で少し難しい本を一冊読むというやり方もありますし、毎回参加者全員が、その週に本を読むなどして気づいたこと、考えたことを発表し、それについて意見交換をするというやり方もあります。夏休みまでに、自分の勉強のテーマを見つけることを目指します。

秋学期には、自分の考えを組み立て、少しまとまった発表をする機会を設ける予定です。

<4年次>

論文の構成を考えたり、細部について議論したりしながら、勉強の成果をまとめるような形で授業を進める予定です。

#### (2) ゼミ論の有無

有り。

#### (3) 評価方法

<3年次> 授業での発表・発言によって評価します。

<4年次> 授業での発表・発言と論文によって評価します。

### 3. 使用テキスト

こちらから予め指定するものではありません。

### 4. 応募学生に望むこと

自分自身で問題を見出し、自分自身で考えるようにしてください。

できるだけ二つ以上の外国語に親しんでほしいと思っています。

### 5. 選考方法

面接。

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと

できれば私が担当している講義「宗教と哲学」を履修しておいてください。

### 7. その他

とくにありません。

# 27 宮本 大人 准教授

---

## 1. 演習のテーマ

「メディアと大衆文化／サブカルチャー」

大衆文化（マス・カルチャー／ポピュラー・カルチャー）やサブカルチャーの領域の様々な問題を、そのメディアとの関わりにおいて考える。マンガ、アニメ、テレビ番組、広告、お笑い、ポピュラー音楽などの表現ジャンルに限らず、ファミリーレストランやコンビニなどの大衆的な生活・消費文化、さらにはオリンピックやプロスポーツの大会などの、いわゆるメディア・イベントも視野に入れる。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

3～5名のグループで、フィールドワークや文献購読など、共通の課題に取り組むグループ発表や、受講者それぞれの関心に即した個人発表を中心とする。これを通じて、発表を準備するための参考文献・資料の探し方や分析の方法論を学び、多少難解な学術論文も読みこなせる読解力、効果的なプレゼンテーションの技法、6000字から10000字程度のある程度まとまった分量の論文の作成能力、活発なディスカッションを行うコミュニケーション能力などを、実践的に培っていく。夏休みに3泊4日のゼミ旅行（参加必須、関西方面の予定）を行う。

#### <4年次>

3年次の終わりまでに卒業論文のテーマを設定し、4年次においてはその準備、執筆を進めていく。もちろん、グループ発表、個人発表、文献講読等、ゼミ全体での活動は3年次同様、継続する。詳しいスケジュールは当該年度の初めまでに決める。夏休みに2泊3日の卒論合宿を行う。課外活動等については3年次のゼミ生と一緒にを行う。

### (2) ゼミ論の有無

有り。20000字以上の卒業論文をまとめ、ゼミ全体の卒論集を制作し、学外でも販売する。

### (3) 評価方法

発表（30%）、ディスカッションへの貢献度（30%）、期末の課題（30%）、平常点（10%）。

## 3. 使用テキスト

そのつど指示します。

## 4. 応募学生に望むこと

ゼミは、部活のようなものです。担当教員はコーチに過ぎず、実際にplayするのはみなさん自身です。このゼミがみなさんにとって充実したものになるためには、みなさん自身の積極的な参加が必要です。

幅広い題材を対象にしてよいゼミですので、集まる人の趣味やライフスタイルも様々だと思います。したがって、「自分と違うタイプの人」と付き合う意欲を持っている人を求めます。いわゆる「社交的な」人である必要はありません。人とのコミュニケーションが苦手でも、とにかく自分の殻に閉じこもらない意欲と努力を見せてほしいということです。

## 5. 選考方法

事前提出の課題と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明するので必ず出席すること。個別ガイダンスに出席していない場合は選考を受けられない。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。

## 7. その他

# 28 森川 嘉一郎 准教授

---

## 1. 演習のテーマ

マンガ・アニメ・ゲーム／デザイン／都市

マンガ・アニメ・ゲームおよびそれらに近接するポップカルチャー、デザイン、そして現代都市に関するさまざまな調査・研究を行う。自分で創作的な「作品」を制作し、その公表や流通を成果とするような研究も受け入れる。これまで、マンガ同人誌、ショートアニメ、ゲーム、音楽 CD、スマートフォンのアプリ、同人グッズなどの制作・頒布、さらには展覧会やイベントの企画・実施など、さまざまなことに取り組む学生がいた。また、英語による発表や論文、作品制作も可とする。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

春学期は各々の関心領域に沿って、基礎的な文献の洗い出しや、さまざまな調査法の試行を行い、発表とディスカッションを繰り返しながらテーマ設定や資料の採取源、達成目標を明確にした研究計画を作り上げる。秋学期はフィールドワークや取材に重心を移す。各期末には、経過を冊子状の提出物にまとめる。就職を希望する業種によっては、就職活動のポートフォリオの一部となるように作成してもよい。創作的な「作品」を制作する場合には、各学期ごとに成果物を公表するとともに、その反響を簡単なレポートにまとめる。

#### <4年次>

3年次にまとめた成果と経験を下敷きにしなが、研究計画を再構築し、研究の範囲に歴史的・社会的な奥行きを与え、創作を行う場合は、前年度の達成を踏まえて表現の幅や受容の拡大を目指す。

### (2) ゼミ論の有無

有り

各々の研究を自分の実績として、将来的な自己プレゼンテーションの材料として活用しやすいように、研究の成果を各期末にそれぞれ1冊の本に仕上げる（創作的な「作品」を制作する場合はそれに合った形態でもよい）。

### (3) 評価方法

発表（40%）、提出物（40%）、平常点（20%）。

## 3. 使用テキスト

各々のテーマに沿って適宜指示する。

## 4. 応募学生に望むこと

ゼミのホームページ (<http://edu.a.la9.jp/>) を見ておくこと。研究したい事柄が、応募の時点である程度思い描けていることが望ましい（後から変更してもよい）。

## 5. 選考方法

作文と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示する。留学中の場合は別途案内する）。

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

ゼミで研究してみたいと考えているトピックについて、試しに関連する文献を探し、読んでみることを望ましい。作品を作りたいと考えている人は、試作をはじめてほしい。

## 7. その他

フィールドワークや取材を体験するための校外実習を適宜開催することがある。

## 1. 演習のテーマ / Theme

This seminar invites students who wish to research Japanese pop-culture, especially *manga*, *anime* and games, as well as those who are interested in urbanism and design. Studies focusing on particular authors, genres, fan-groups, communities or places, together with their interrelations, are welcome.

Studies on *manga*, *anime* or games are relatively new to academia. Students are encouraged to devise creative methods to accomplish fruitful research.

The seminar also offers an option to let the students produce artistic works instead of research papers, on the condition that the works are published and distributed in public venues. There have been members who took up making *manga* fanzines to be distributed at the Comic Market, executing exhibitions, creating short films, and making computer games.

## 2. 授業内容 / About the course

### (1) 授業の進め方 / How the course is conducted

#### <3 年次 / 3rd Year>

In the first semester, students are to concentrate on determining their interests and pursuits, together with suitable research methods. Digging and mining referential materials are also essential. Every week, the students shall present their progress, followed by discussion. In the second semester, more time shall be devoted to the execution of individual research, whether it be fieldwork, interviews, or experimentation. At the end of each semester, the students are to compile their progress into booklet-form or otherwise.

#### <4 年次 / 4th Year>

Further research shall be conducted, either by extending one's previous year's project, or by starting a project totally anew. Adding historical and international perspectives are encouraged, as well as the pursuit of a well-designed book-form presentation.

### (2) ゼミ論の有無 / Thesis

Students are to present their progress in booklet-form at the end of each semester. Students who choose to produce artistic works may design their presentation otherwise, depending on their medium.

### (3) 評価方法 / Evaluation

Weekly presentation (40%)、Semesterly presentation (40%)、Attitude (20%)

## 3. 使用テキスト / Textbook(s)

Individually advised.

## 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

Refer to the seminar website: <http://edu.a.la9.jp/>

It is preferable that the student holds ideas as to what he/she wants to study, prior to applying to the seminar.

## 5. 選考方法 / Screening

Essay and interview.

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

Hunt for books related to the topics you plan to pursue in the seminar. If you are interested in producing artistic works, give it a try right away.

## 7. その他 / Others

The seminar may hold excursions to experience fieldwork.

## 29 山脇 啓造 教授

---

### 1. 演習のテーマ

#### 多文化共生のまちづくり

グローバル化や少子高齢化が進展する中、日本を含む先進諸国にとって、国籍や民族などの異なる人々が共に生きる多文化共生社会の形成は喫緊の課題といえます。多文化共生の意義を学び、ローカルな課題に取り組みながら、地球時代に生きるためのグローバルな素養を身につけます。具体的には、2020年の東京五輪を控え、多文化共生への関心を高める東京都や中野区など行政や企業、NPOと連携して、多文化共生をテーマにした調査研究やイベントを実施します。

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

**<3年次>** 最初の1カ月に、多文化共生に関する文献を集中的に読みます。その後、東京都や中野区などと連携して、多文化共生をテーマにした調査研究やイベントを実施します。

**<4年次>** 多文化共生をテーマにした調査研究やイベントを実施します。

#### (2) ゼミ論の有無

任意（書く場合は8000字程度）。

#### (3) 評価方法

調査研究やイベントの企画運営など、ゼミ活動への貢献を総合的に評価。（3、4年共通）

### 3. 使用テキスト

テキストは特にありません。英語の文献も使います。

### 4. 応募学生に望むこと

①討論：毎回のゼミで積極的に発言できる人。②行動：授業時間外にも、自発的にまち歩きをするなど、フットワークの軽い人。③共生：様々な文化背景を持った人。外国人留学生（ET生を含む）の参加を歓迎します。なお、毎回の出席が原則として求められます。授業時間外にイベントを実施する場合もあり、サークルなどを理由とした欠席は認めません。

### 5. 選考方法

志望理由書（以下のサイトからダウンロードし、必ず面接日の3日前までに提出してください：<http://intercultural.c.ooco.jp/index.php/vision/seminar>）と面接。選考のポイントは、問題意識、論理的思考力、コミュニケーション力、勤勉性、協調性、学業成績、英語力です。（留学中の学生も原則としてオンライン面接を行います。）

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部設置科目の「多文化共生論」の履修。

### 7. その他

入室希望者は、必ず演習案内ビデオに目を通し、留学中でなければ、個別ガイダンスに参加してください。3年次の4月下旬に国内合宿、8月下旬に海外合宿を行う予定です。イベントは、3年と4年が合同で行います。その準備のため、ゼミの時間が2コマ連続となる場合があります。

## 30 渡 浩一 教授

---

### 1. 演習のテーマ

「ニッポンの歴史と文化」をテーマとします。

日本の歴史と文化を国際日本学的な視野から見つめ直し、日本・日本人・日本文化について考えてみたいと思います。

ちなみに、渡の主な関心研究領域は、日本人の信仰と文化、外国人の見た日本・日本人、外来文化の日本の変容、日欧文化交流史などで、時代的には中世～近代（明治）と広く関心があります。研究のキーワードは江戸文化・日本人論・日本文化論・死生観・冥界観・日本仏教・家制度・唱導・絵解き・地蔵・地獄・子ども・南蛮文化・キリシタン・イソップ寓話・阿蘭陀人・和食などです。

### 2. 授業内容

#### (1) 授業の進め方

##### <3年次>

春学期はテキストを議論しながら輪読していきます。必要に応じて、議論を踏まえた発表・討論も随時行います。秋学期はそれを踏まえ、学生と相談しながら進め方を決めたいと思います。

##### <4年次>

春学期は、ゼミ論の構想を練り上げ、その執筆準備をしていってもらいます。秋学期は、ゼミ論の執筆とその中間報告をしてもらい、1月に提出してもらいます。

#### (2) ゼミ論の有無

20,000字程度の論文を提出してもらいたいと考えています。

#### (3) 評価方法

<3年次>                      テキスト読解・発表（50%）      発言回数・内容（50%）

<4年次春学期>              テキスト読解・発表（50%）      発言回数・内容（50%）

<4年次秋学期>              論文（80%）      発言回数・内容（20%）

### 3. 使用テキスト

ニッポンの歴史と文化について考えるのに有用と思われる文献を学生と相談してテキストとして選びたいと思います。

### 4. 応募学生に望むこと

「自ら調べ、自ら学ぶ」という姿勢で研究に取り組んでほしいと思います。

### 5. 選考方法

面接によります。

### 6. 演習入室までに学習してほしいこと

基本的な日本史の知識は身につけておいてほしいと思います。

### 7. その他

ゼミ生は3年生3名、4年生3名です。これまで応募者無し、応募者1名のみということは何度かありました。一人になっても構わないという人は応募してください。

# 31 ワルド ライアン 専任講師

---

※この演習は、学生の希望があれば英語でも指導します。

## 1. 演習のテーマ

「死」の日本宗教史

本ゼミの目的は、多角的な（歴史学的、人類学的、美術学的、宗教学的な）視点を用いて、古代から現代に渡る、日本の宗教史における「死」の意味合いとその歴史の変遷を共に考えることにある。また、日本に限定することなく、なるべく洋の東西（東アジア、インド、中東、ヨーロッパ、など）の宗教史についても考察範囲とし、より比較的な検討を行うように努めていきたい。

## 2. 授業内容

### (1) 授業の進め方

#### <3年次>

進行形式としては、日本の宗教史と「死」の基礎知識を学びつつ、事前に学生諸君に読んでおいてもらうべき学術論文を担当学生に簡単な要約をしてもらった上、ディスカッションをする。

#### <4年次>

同上

### (2) ゼミ論の有無

有り

### (3) 評価方法

<3年次> 平常点（40%）、発表（30%）、レポート（30%）で行う。

<4年次> 平常点（20%）、発表（20%）、論文（60%）で行う。

## 3. 使用テキスト

プリントを配布する。

## 4. 応募学生に望むこと

積極的にゼミに参加する学生を望みます。

## 5. 選考方法

面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。

## 7. その他

ゼミ合宿（場所検討中）を行う予定です。



# 31 WARD, Ryan Senior Assistant Professor

---

## 1. 演習のテーマ / Theme

This seminar is intended for students who are interested in religious studies, mental health care, and questions concerning life and death. The seminar is primarily run by the students themselves: each week an individual student makes a 30-40 minute presentation which is followed by Q&A. The professor does show up, unfortunately, and also participates.

In past seminars students have dealt with topics concerning as Japanese religion, psychiatry, bioethics, religion and art, and cross-cultural comparisons of life and death.

## 2. 授業内容 / About the course

### (1) 授業の進め方 / How the course is conducted

#### <3年次 / 3rd Year>

The seminar is primarily run by the students themselves: each week an individual student makes a 30-40 minute presentation which is followed by Q&A. The professor does show up, unfortunately, and also participates.

#### <4年次 / 4th Year>

Same as above.

### (2) ゼミ論の有無 / Thesis

Yes

### (3) 評価方法 / Evaluation

3rd Year: Attendance (40%), Presentation(30%),Report(30%)

4th Year: Attendance (20%), Presentation(20%),Thesis(60%)

## 3. 使用テキスト / Textbook(s)

Various handouts will be distributed in class as needed.

## 4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

As the topics we deal with are of a highly serious nature, only highly serious students are welcome. Expect to do a lot of work.

## 5. 選考方法 / Screening

Interview will be prepared.

## 6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

None.

## 7. その他 / Others

Seminar events will be announced.

**2020 年度 国際日本学部演習案内**

2019 年 9 月 20 日

編集・発行

印刷・発行

明治大学国際日本学部

東京都中野区中野 4-21-1